

資料紹介

井上哲次郎「巽軒日記」大正二年下半年期

村上 こそえ  
森本 祥子

翻刻にあたって

明治期から昭和戦前期にかけて哲学者として活躍した、井上哲次郎（一八五五～一九四四）の日記『巽軒日記』の大正二年分下半年期について引続き紹介したい。なお、凡例については第三一号で述べていることから割愛する。

巽軒日記

大正二年（西暦一九一三）下半年期

七月

一日、午前、晴天、三教会同及び反省社より来状、○加藤弘之より「国家の統治権」を送来る、○縫子を三井銀行に遣はす、○巢鴨の木工来る、○書状を帝国学士院に送る、○「諸葛丞相集」を読む、○「東亜の光」（八の七）成る、○「今後の教育と宗教」東亜の光に出づ、○晩成処より印税を送来る、○製本屋来る、乃ち之九部（拾壹冊）を付与す、○多木悦造より来状、○午后、真金近松来訪す、○河瀬秀治より来状、○丸善より Bergson, Matter and Memory を送来る、○夜、教科書会より書類来る、○Max

Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、○教員検定委員会、大塚先儒墓所保存会及び谷実夫より来状、  
二日、午前、曇天、学習院に赴く、○乃木大将の「国基」を学習院より受く、○不在中福井県視学木内確示、吉岡郷甫の紹介状を携来る、○森良三郎来る、○午后、木内確示来訪す、○文部省より教科書数冊を送来る、○書状を富田美次郎に送る、○北澤写真館より写真打を送来る、○夜、乃木会及び文成社より来状、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、○丸善より名士講演（三宝の話）を送来る、  
三日、午前、晴天、書状を黒木安雄に送る、○堀口助治より来状、○浦谷熊吉、齋藤正雄来訪す、○縫子、買物に外出す、○「小学教育に於ける国民道徳」小学研究に出づ、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、○午后、曇天、書状を富田美次郎に送る、○引続き、Max Verworn を読む、○帝国学士院より論文を送来る、○夜、素行会に松浦伯爵邸に赴く、原保次郎、村松恒一郎、江木千之等と会見す、○雨、  
四日、午前、曇天、黒木安雄より黒田侯の詩稿を送来る、○石原即

聞より来状、○黒田侯の詩稿を添削す、○雨、○女中千代を岸田繁次郎宅に遣はす、○詩稿を中島利一郎に送る、○午后、陰霽不定、南風稍強、○岸田繁次郎来訪す、○木村謹治、吉利純、井手義行、馬場吉信、東亜協会々員となる、○深作安文来談す、○夜、雨天、帰一協会に赴く、○吉本福三、及び文科大学より来状、

五日、午前、半晴、富田美次郎、及び萩之家追悼会事務所より来状、○帝国学士院授賞式に赴く、○午后、曇天、引続き帝国学士院に在り、○五島清太郎、村岡良弼、井上頼国、高峰謙吉等と学士院に会见す、○黒木安雄より詩稿を送来る、○不在中岸田繁次郎来る、○奥田義人及び富田美次郎より来状、○黒田侯の詩稿を閲読し、之を中島利一郎に送る、○書状を貞金近松に送る、○夜、三教会同準備会上野精養軒に赴く、来会者三十七名、○此日、磯江潤より反物を送来る、

六日、午前、晴天、谷実夫、松浦一、古川黄一、瀧田哲太郎、市沢弥一、深作安文、浦谷熊吉、岸田繁次郎、山方泰来訪す、○嵩海藏より「吞象楼遺稿」(第一冊)を送来る、○午后、曇天、姉崎増子、菓子箱を携来る、○浅野利三郎来訪す、○佐伯俊二及び阪了介より来状、○書状を文科大学に送り、来学年の講義課目を定む、○夜、有栖川宮威仁親王昨夜薨去の報あり、御年五十二歳、○第三皇子光宮宣仁親王に高松宮の称号を賜はる、○宗教学卒業生一同より来状、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、

七日、午前、晴天、女中きんを姉崎宅に遣はす、○女中千代を郵便局に遣はし、電話使用料金拾六円五拾銭を納む、○姉崎正治来る、○縫子、大学病院歯科に赴く、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、○伊澤修二よりサイダー壺箱と団扇二本と

を送来る、○午后、島本愛之助、池田敏幸、大島正徳、岩橋遵成来訪す、○瀧田哲太郎及び市澤弥一來る、各々談話を筆記せしむ、○文科大学より宮本和吉の報告を送来る、○在巴里小林照朗より絵葉書来る、○書状を井芹經平に送る、○夜、教科書会及び日本宗教大会委員より来状、○富山房の筆記を訂正す、

八日、午前、曇天、原稿を富山房に送る、○縫子、大学病院に赴く、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、○市澤弥一、筆記を携来る、○午后、半晴、引続きMax Verwornを読む、○教科書会より来状、○辻本卯藏来訪す、○夜、宗教学卒業生の招待を受けて平野屋に赴く、○黒木安雄より詩稿を送来る、○不在中鈴木弘来訪す、○文科大学より来状、○此日、内ヶ崎作三郎より「近代人の信仰」を送来る、

九日、午前、曇天、学習院に赴く、○縫子、大学病院に赴く、○文学社よりハンケチ壺打を送来る、○丸善よりMarkowitz, Die Weltanschauung, Henrik Ibsens を送来る、○午后、黒田侯の詩稿を読評す、○深作安文、漆器を携来る、○文明協会より砂糖を送来る、○詩稿を中島利一郎に送る、○小山鞆繪、宮坂喆宗来訪す、○書状を浦谷熊吉に送る、○若杉喬より来状、○暁星学校より「暁星」(第二号)を送来る、○書状を山崎達之輔に送る、○夜、鈴木弘来訪す、○中島利一郎より詩稿を送来る、○書状を桑木嚴翼に、詩稿を黒木安雄に送る、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、○此日、吉田宅より贈物来る、

十日、午前、曇天、帝国大学の卒業式に赴く、卒業生は法科三九一人、医科一四一人、工科一八八人、文科八六人、理科三一人、農科一一七人、合計九五四人、○木場貞長、土肥慶藏、黒木安雄等

と会見す、○午后、晴天、山田敏一、速水滉来訪す、○女学部より御礼を送来る、○押田清子来談す、○博品館に赴き、帰途種々買物をなす、○不在中埜口徳太郎来訪す、○夜、富山房より「今昔物語集」を送来る、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、

十一日、午前、曇天、吉田静致、「倫理学演義」を携来る、○教授会に大学に赴く、尋いで姉崎正治の送別会に出づ、○縫子、大病院に赴く、○不在中浦谷熊吉、市沢弥一、宮坂喆宗、太宰施門来訪す、○隆文館よりビール壺打を送来る、○「学生宝鑑」壺百部の奥附を大倉書店に付与す、○教科書会に文部省に赴く、○試験問題を山崎達之輔に送る、○夜、伊藤吉之助来訪す、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、○帰一協会より来状、○富山房よりハンケチ壺打を送来る、○此日、林董逝く、享年六十四、

十二日、午前、晴天、島本愛之助、浦谷熊吉、来訪す、○杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○六盟館及び川澄清より各々ハンケチ壺打を送来る、○午后、市澤弥吉来る、乃ち原稿を付与す、○森良三郎、大島正徳来訪す、○浅倉屋より菓子をも、弘道館よりサイダー壺箱を送来る、○黒木安雄より詩稿を送来る、○詩稿を読む、○林平次郎よりビール半打を送来る、○縫子、春枝及び高子を拉して買物に三越に赴く、○秋月胤継より書状を添へて「草軒遺稿」を送来る、○夜、Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、十三日、午前、曇天、文王閣より「日蓮上人自叙伝」を送来る、○豊田臻、今村完道、中島利一郎、白井成允、大西克禮、小野去水来訪す、○佐々木喜市、菓子を携来る、○菓子を川端及び甘木

に送る、○大倉書店よりビール壺打を、同文館より文房具を、東京社より状囊を送来る、○丸善より洋酒三罍を送来る、○午后、書状を秋月胤継に、原稿を文成社に送る、○書斎の大整理をなす、○菓子を富田順吉に、砂糖を真浄寺に送る、○井上波野来訪す、○夜、浴衣壺反宛浦谷と岸田とに送る、○新聞雑誌類を読む、○此頃支那南北軍、九江に戦ふとの報道あり、戦端を開きしは十二日なり、○此日、菓子を田中次郎に送る、

十四日、午前、晴天、大に書斎の整理をなす、○縫子、遠藤隆吉宅に赴く、○菓子を押田老母に送る、○古川黄一來訪す、○午后、武藤儀亮、池田敏幸、深作安文、岸田繁次郎、浦谷熊吉、有馬祐政、小野去来来訪す、○文成社より御礼とハンケチ壺打を送来る、○笹川貞子、菓子を携来る、○梅崎亥三、武藤儀亮、太宰施門、上村邦良、宮坂喆宗、東亜協会々員となる、○黒木安雄より詩稿を送来る、○夜、詩稿を評隲して之を中島利一郎に送る、十五日、午前、晴天、書斎の大整理をなす、○土井壯良、今井時郎来訪す、○縫子、高子を拉して井上成美宅に赴く、○女中千代を東海銀行に遣はす、○乾菊栄より来状、○午后、雑誌類の大整理をなす、○浅倉屋来る、○夜、Henri Bergson, Matter and Memory を読む、

十六日、午前、晴天、学習院女学部に赴く、○書状を黒木安雄に送る、○青森徳英来訪す、○午后、雑誌類の大整理をなす、○製本屋来る、○寛克彦来訪す、○黒木安雄より書状と小包とを送来る、○文部大臣官房秘書課長より来状、○夜、雨天、古莊嘉門より来状、○杉山直喜、来る、乃ち談話を速記せしむ、○元良米子より来状、○詩稿を中島利一郎に送る、

十七日、午前、晴天、富田美次郎より来状、○雑誌類の大整理をなす、○伊藤栗川来訪す、有故不遇、○有栖川宮威仁親王の葬式あり、○午后、引続き雑誌類の大整理をなす、○成瀬仁藏より来状、○縫子、姉崎、笹川及び吉田宅に赴く、○「女子教育に関する談話」中央公論に出づ、○Henri Bergson, Matter and Memory を読む、十八日、午前、曇天、森良三郎、武藤儀亮、浦谷熊吉、間千代、牧野静、上村邦良、速水混来訪す、○杉山直喜より速記を送来る、○青木賢次郎より来状、○文明協会より「植民政策」及び「世界的米合衆国」を送来る、○巢鴨の地租金十円式錢五厘を郵便局に納む、○午后、晴天、齋藤基次郎妻、洋酒三罎を携来る、○中島利一郎、御札を携来る、乃ち之に十住心論と十卷章とを付与す、○速記を訂正す、○原稿を印刷所に送る、○書状を黒木安雄に送る、○夜、Bergson, Matter and Memory を読む、十九日、午前、曇天、吉田豊吉、島本愛之助、黒木安雄来訪す、○下野新聞社より来状、○書状を中島利一郎に送る、○午后、晴天、原稿の整理をなす、○竹下寅次郎、阪了介、富田春山より来状、○元山商店員来る、○夜、Henri Bergson, Matter and Memory を読む、○竹内康二、「吞象楼遺稿」の写本を携来る、○此日、中洲養父の命日に当るを以て之を祭る、二十日、午前、曇天、中川景輝より来状、○島本愛之助、平塚唯鳩、阿部重好、森良三郎、来訪す、○午后、晴天、詩稿を黒木安雄に送る、○押田三郎夫妻及び青山延敏来訪す、○Henri Bergson, Matter and Memory を読む、○夜、引続き Bergson を読む、○「吞象楼遺稿」を読む、廿一日、午前、曇天、蓮沼門三より来状、○使者を学習院に遣はし、

「吞象楼遺稿」を返納す、○中島泰藏来訪す、○Max Verworm, Allgemeine Physiologie を読む、○午后、浦谷熊吉、岸田繁次郎、藤井健治郎来訪す、○反省社より菓物壹籠を送来る、○黒木安雄より「書苑」第二巻と「広唐賢三味集」とを送来る、○山邊了紀、渡瀬三郎、阿部重孝、今井時郎、東亜協会々員となる、○教科書会より来状、○夜、「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○引続き Max Verworm を読む、廿二日、午前、曇天、伊藤吉之助、森良三郎来談す、○写真を下野新聞社に送る、○宣光を文部省及び三井銀行に遣はす、○法貴慶次郎より饗節を送来る、○午后、書状を井上健兒、山内契順及び学習院輔仁会に送る、○使者を製本屋に送る、○運動に神田に赴く、○竹内康二及び井芹經平より来状、○夜、書状を若杉喬に送る、○Max Verworm, Allgemeine Physiologie を読む、○此日、植木屋来る、廿三日、午前、曇天、「古学哲学」五拾部及び「朱子哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、○大島直治より絵葉書来る、○縫子、児輩三人を拉して横浜押田宅に赴く、○女中千代を大学に遣はす、○独逸の Schopenhauer-Gesellschaft に金拾麻克を払込む、○書齋の整理をなす、○午后、書庫の大整理をなす、○竹内康二来る、乃ち聖語述を付与す、○野村勘左衛門、富田政喜及び清水谷善照より来状、○夜、縫子独り帰来る、○Max Verworm, Allgemeine Physiologie を読む、○此日、植木屋来る、廿四日、午前、曇天、浦谷熊吉来る、○島本愛之助より来状、○書籍数拾冊を大学図書館に返納す、○製本屋来る、○午后、小雨、浅倉屋来る、乃ち之に書籍数拾部を付与す、○児



輩、横浜市より帰来る、○元山商店員来る、乃ち之に古雑誌を付与す、○庭内に機械体操場を作る、○夜、Max Vervorn, Allgemeine Physiologie, Bergson, Matter and Memory 及び「吞象楼遺稿」を読む、

廿五日、午前、曇天、芳賀矢一より「国文学史概論」を送来る、○印刷所より「東亜の光」口絵解題を送来る、乃ち一閱の後之を送返す、○鈴木暢幸より来状、○縫子、祝物を携へて元良米子宅に赴く、○宅地租金七円五拾八錢五厘、府税市税金貳円五拾四錢五厘、合計金拾円○拾参銭を郵便局に払込む、○使者を大学図書館及び帝国学士院に遣はして書籍を返納す、○午后、晴天、書庫の大整理をなす、○瀨本志げ、浦谷ふみ来る、○寛克彦より書状を添へて書籍を返来る、○書状を弘道館に送る、○文科大学より来状、○得能文妻来訪す、○夜、Bergson, Matter and Memory を読む、

廿六日、午前、晴天、角田松壽、土屋新之助来訪す、○午后、渡辺徹、伊澤千世子来訪す、○澤田小一郎より来状、○「教界春秋」を草して之を印刷所に送る、○夜、撰氏三十一度、○Bergson, Matter and Memory を読む、○加藤駒二、山内契順及び大塚先儒墓所保存会より来状、○「吞象楼遺稿」を読む、

廿七日、午前、晴天、小林一郎より小包を送来る、○三上義夫、富岡永馬、梅澤和軒来訪す、○縫子、吉田宅に赴く、○巢鴨の大工数人来りて第一号家屋を修繕す、○目黒書店よりハンケチ式打を送来る、○午后、書状を中島利一郎に送る、○Bergson, Matter and Memory を読む、○「吞象楼遺稿」を読む、○夜、Max Vervorn, Allgemeine Physiologie を読む、○「吞象楼遺稿」を

読む、○竹内康二、「聖語述」を写して来る、

廿八日、午前、晴天、桑田芳藏、浦谷熊吉来訪す、○午后、高橋穰、橋本文壽、佐々木喜市来訪す、○文科大学より来状、○書状を宮内省式部職に送る、○岸田繁次郎来る、○弘道館より使者来る、○運動に大塚方面に出づ、○岩崎孫八、金子健二、東亜協会々員となる、○吉田雪子来談す、○夜、東亜協会勧誘状を新田徳、新保寅次、中川芳太郎、内藤馬藏、長岡恒喜、内藤濯、内藤武彦、那須省吾、能興作、岩佐重一、セルゲイ、エリセエフ、豊田藤弥に送る、○夜半、撰氏二十九度五分、

廿九日、午前、晴天、書状を小谷政祐に送る、○深作安文、北海道より絵葉書を送来る、○宣光高等学校試験不合格、○午后、諸雑誌の大整理をなす、○図書会社より使者来る、○統一閣より来状、○ペンキ屋来る、○夜、「吞象楼遺稿」を読む、○文芸協会より来状、○奥原晴湖、昨廿八日を以て逝去すとの報あり、享年七十七、一説に七十六、○竹内康二来る、

三十日、午前、晴天、明治天皇一周年祭、大学の祭式に赴く、○午后、曇天、書状をJ. Maisonneuve に巴里市に送る、○岩田僊太郎より敷布二枚を送来る、○岸田繁次郎及び製本屋来る、○書状を若杉喬に送る、○夜、雨天、栗田寛の「氏族考」を読む、

卅一日、午前、曇天、谷實夫より来状、○雑誌類を車に載せて岸田繁次郎に送る、○書状を宮内省に送る、○竹内康二、写本を携来る、○若杉喬より電報来る、○原稿を整理す、○午后、女中千代を東海銀行に遣はす、○森良三郎来る、○第一号借家修繕成る、○大金来る、乃ち之に金壹百拾貳円九拾四錢を付与す、○電報を若杉喬に発送す、○姉崎袖子来訪す、○齋藤あい子団扇を携来る、

○安藤某より来状、○書状を貞金近松に送る、○電報を谷実夫に送る、○博品館に赴く、○夜、書状を吉田熊次に送る、

## 八月

一日、午前、曇天、八、三〇正勝、益之進を拉して新橋を出発す、女中千代及び岸田繁次郎送来る、村上專精、仝龍英、坂本嘉治馬と逢ふ、○午后、晴天、車中露国の女教員と会谈す、○夜、八、○〇敦賀に着、直に具足屋に投す、桑原隲藏、若杉喬、藤田丞作（郡視学）、福島治三郎等来迎す、○此日、留守宅に於ては文成社の使者来る、○鹿子木員信来訪す、○間端吾、写真を携来る、○男爵関義臣、「服仮沿革略考」を携来る、

二日、午前、晴天、講習会に赴き、「国民道德」を講ず、○本多忠綱、馬場一衛等来訪す、○藪重吉、杉原弥之助と会見す、○午后、唐川徹来訪す、○書状を柳利三郎に送る、○氣比神宮に謁し、尋いで又金ヶ崎神宮に詣し、帰途萬象閣に立寄る、○山本傳兵衛、光友猪太郎来訪す、○此日、留守宅にては、春枝、吉田宅に赴く、○森良三郎来る、○井上健兒より小包を送来る、○前川又三郎、より菓子を送来る、○縫子、姉崎宅の法事に赴く、

三日、午前、曇天、講習会に赴く、○出田新と会見す、○午后、晴天、海路常宮に謁し、一村共同の産家を見る、○夜、亀井新太郎、西村房治郎、笹山章来訪す、○柳利三郎より電報来る、○留守宅にては、春枝、高子と共に吉田宅に赴く、○森良三郎、茄子を携来る、○浦谷熊吉、小谷重来る、○橋本文壽来る、乃ち之に扇子を付与す、○三島復、菓子を携来る、○畳屋来る、

四日、午前、晴天、講習会に赴く、○「国民教育と家族制度」を読む、○午后、松原公園に赴き、松原神社に謁し、尋いで招宝寺、来迎

寺及び西福寺に遊び、復た松原公園を経て還る、○夜、柳利三郎と会見す、○中熊直喜、古俣二三三、三島復、大津市役所及び文成社より来状、○此日、留守宅に於ては、春枝、高子共に吉田宅に赴く、○赤井直好、陶器を携来る、○淺野利三郎、菓子を携来る、五日、午前、晴天、柳利三郎と会見す、○講習会に赴く、○午后、松村才知来訪す、○書状を貞金近松に送る、○留守宅より来状、○「家族制度」を読む、○夜、「家族制度」を読む、○萬象閣に赴き、「善と福との話」をなす、聴衆約三百余人、○此日、留守宅にては、森良三郎来る、○廣池千九郎、菓物を携来る、

六日、午前、曇天、野村勘左衛門来訪す、○講習会に赴く、○「家族制度」を読む、○午后、書状を留守宅に送る、○揮毫、○高島茂平来訪す、○夜、宇野九市郎、亀井新太郎、西村房治郎外二名来訪す、○此日、留守宅にては「大日本仏教全書」を受取る、七日、午前、曇天、講習会に赴く、○岡田良平、富田美次郎、辻本卯藏、及び文科大学より来状、○留守宅より羽織を送来る、○午后、兄等二人を拉して杉津に遊び、船にて還る、○夜、山本傳兵衛、御礼の為に来る、○教育会幹部より招待せらる、

八日、午前、晴天、窪政次郎外京都の小学教員三名来訪す、○講習会に赴く、○若杉野村二氏来訪す、○午后、一、〇八敦賀発、○夜、八、〇一神戸着、柳利三郎来迎す、直に兵庫に赴き、海辺の一旅館に投す、終夜、蚊の為に困しめらる、○此日、留守宅にては、若木貞一、小豆澤英男、森良三郎来る、

九日、午前、二、三〇汽船に駕して兵庫を出発す、○六、〇〇頃志筑着、十河力太郎来迎す、直に旅館に投す、青木正及び片山滴園と会見す、○伊弉諾神社に謁す、竹内利道（官司）、飯田鏡太郎（祢

宜)等と会見す、○洲本ホテルに赴く、○午后、自動車を駆りて自凝神社に赴く、○夜、電報を辻本卯藏に鎌倉に送る、○書状を留守宅に送る、○此日、浦上一乗、三島廣吉、北山虎吉、澤田小一郎等と会見す、○留守宅にては、瀧田哲太郎来訪す、○「陽明哲学」志百部及び「古学哲学」五拾部の奥附を富山房に付与す、十日、午前、晴天、武徳殿に赴き、積小軒同窓会の為に「人生と修養」とを演述す、聴衆約五百人、○午后、積小軒同窓会の懇親会に武徳殿に赴く、○山崎數衛、長谷川觀山来訪す、○辻本卯藏より電報来る、○大浜公園に遊び、尋いで城山に登り、転じて四州園に赴く、○七絶一首を賦す、云く、

自凝之島果何辺。太古靈区今尚伝。

日暮未休尋史蹟。三熊山外月如煙。

○此日、留守宅にては、浦谷熊吉、佐々木英夫、及び中央公論記者来る、

十一日、午前、晴天、武徳殿に赴き、「時世と覚悟」を演述す、○正午、汽船に駕して出発す、来送者十有余人、小澤某随行す、○午后、三、三〇兵庫着、直に神戸菊水に赴く、揮毫、○夜、六、三〇出発、十二日、午前、晴天、兎等二人を先づ帰らしめ、自ら鎌倉師範に赴き、講習会に於て「神道と国民教育」を講演す、○午后、一、二、五〇

出発、車中金子堅太郎及び入沢達吉と会見す、○二、〇〇過新橋着、○三、〇〇過帰宅、○若杉喬より来状、○夜、休養、○今回の旅行中敦賀にて会見せし人々は、松村才知(内務部長)、馬場一衛(理事官)、井上眞平(宮司)、石塚資雄(称宜)山本傳兵衛、杉原弥之助、藪重吉(金崎宮々司)本多忠綱(師範学校長)光友猪太郎(郡書記)若杉喬(郡長)唐川徹、吉田陳美(警察署長)

藤田丞作(郡視学)、出田新(福井農林学校長)刀根龜次郎、龜井新太郎、東野源造、吉田寅藏(福井中学校教諭)、福島治三郎、西村房治郎等、

十三日、午前、曇天、岸田繁次郎、蓮沼門三、瀧澤慎作来訪す、○縫子、春枝高子を拉して齋藤基次郎宅に赴く、○午后、木川又吉郎来訪す、○宣光亦齋藤基次郎宅に赴く、○岸田繁次郎又来る、○青木俊二、長岡恒喜、緒方健三郎、東亜協会々員となる、○雷雨一過、○夜、島本愛之助及び龜井新太郎外二名より来状、

十四日、午前、晴天、六、〇〇上野発、九、〇〇過宇都宮着、直に師範学校に赴き、講習会に於て「武士道の由来」を講述す、○午后、今市に赴き、二宮神社に謁し、報徳文庫に入り、「報徳全書」を観る、総計二千五百卷、二百四十二帙あり、七絶一種を賦す、云く、

利用厚生立大功。農聖吾久慕高風。

二千余卷存名著。報徳源流豈有窮。

○夜、講習会幹部に武蔵楼に招待せらる、佐々政一亦来る、○此日、留守宅に於ては、佐々木英夫、峰間信吉、補永茂助、及び中央公論記者等来訪す、○高橋宮一、「透視と念写」と「修養と通力」とを携来る、○京都府の龜井新太郎外二名より「袋鳥賊」志箱を送来る、

十五日、午前、晴天、講習会に赴き、引続き、「武士道の由来」を講述す、○午后、一、三〇宇都宮出発、○四、〇〇頃上野着、直に帰宅、○宇都宮にて会見せし人々は、知事岡田文治、内務部長堀口助治、理事官新開滝観、県視学矢板大安、高等女学校長伊藤裕、師範学校長安達常正、社司関根友三郎、下野新聞記者加藤安世及び富田美次郎等、○留守中洲本より反物を、富田順吉より菓

子を、井上健兒より儀助煮を送来る、○岸田老母、菓子を携来る、  
 ○加藤玄智、瀨家熊雄、田中義能、藤田丞作、井上俊雄、全久子、  
 由布惟義、井上健兒、堀重里及び文成社等より来状、○夜、休養、  
 十六日、午前、晴天、塩谷温、姉崎正治来訪す、○宣光を吉田熊次  
 宅及び姉崎正治宅に遣はす、○黒田家より来状、○午后、加藤駒  
 二よりシトロンを送来る、○佃與次郎来る、乃ち談話を速記せし  
 む、○夜、旅行中の日記を作る、○吉田雪子来談す、  
 十七日、午前、晴天、浦谷熊吉、岸田繁次郎、補永茂助、笛岡巖、  
 平塚唯鳩、篠原祿次、元良夫人来訪す、○宇佐美全賢、上村清延、  
 今井登志喜、金井四郎、石井隆雄、東亜協会々員となる、○午后、  
 島本愛之助、久保良英、深作安文来訪す、○使者を森林太郎宅に  
 遣はす、○松山直藏より来状、○夜、姉崎正治の為に送別会を上  
 野精養軒に催し、井上成美、全波野、瀨本志げ子、齋藤あい子、  
 押田三郎、全すが子、吉田雪子等を招燕す、○黒田家より来状、  
 ○佃與次郎より速記を送来る、○山口正一郎より「博士長谷川芳  
 之助」を送来る、  
 十八日、午前、曇天、後、雨、上野精養軒より来状、○青森徳英、  
 齋藤精輔、高橋宮二、芝田徹心来訪す、○製本屋来る、乃ち之に  
 拾冊を付与す、○女中千代を郵便局及び東海銀行に遣はす、○速  
 記を訂正す、○電話使用料金六拾銭を郵便局に払込む、○午后、  
 速記を訂正す、○黒田家より来状、○佃與次郎より速記を送来る、  
 ○「新修養」の記者来る、乃ち談話を筆記せしむ、○藤原咲平来  
 談す、○雷雨、○夜、原稿を印刷所に送る、○教科書会より来状、  
 ○原稿を浦谷熊吉に送る、○勧誘書を塩谷温に送る、  
 十九日、午前、晴天、浦谷熊吉来訪す、○書状を古俣三三二、柳利

三郎に送る、○縫子、姉崎宅及び得能宅に赴く、○里村勝次郎よ  
 り来状、○午后、蠟瀬彦藏、埋木の盆を携来る、○今村完道来訪す、  
 ○黒田家より来状、○瀨本志げ子及び小谷重来訪す、○小包を黒  
 木安雄に送る、○彙報を草す、○「東、西、洋、哲学、思想の一致」東洋  
 哲学に出づ、○夜、原稿を浦谷熊吉に送る、  
 二十日、午前、晴天、下野教育会長堀口助治より来状、○書状を  
 柳利三郎、澤田小一郎に送る、○勧誘状を今村完道、村木維夫、  
 山口正一郎に送る、○矢吹慶輝来訪す、○書状を若杉喬に送る、  
 ○縫子、春枝及び高子を拉して明治博覧会に赴く、○午后、「勸  
 語衍義」一千部の奥附を林平次郎に付与す、○「武士道の由来」  
 下野新聞に出づ、○森良三郎、岸田繁次郎来る、○秋田実、同名  
 異人の秋田實、小川廉三郎、宇野武男、市来義彦、香村亘圓、小  
 田喜作、東亜協会々員となる、○「時代思潮に對する青年の覚悟」  
 日本青年に出づ、○文部省より検定試験答案を送来る、○夜、有  
 馬祐政来訪す、○黒田家より来状、  
 廿一日、午前、曇天、検定試験の答案を読む、○宇野哲人、葛素麵  
 を携来る、○文明協会より「經濟政策」(上巻)と「今日の南亞  
 米利加」とを送来る、○小倉秀道来訪す、○姉崎正治、新橋を出  
 発し、米国に向ふ、○宣光、正治を送りて横浜に至る、○午后、  
 黒田家より来状、○「武士道の由来」下野新聞社に出づ、○岩  
 崎歌郎、吉田熊次、加藤駒二来談す、○縫子、東海銀行に赴く、  
 ○伊集院英二来りて第一号家屋を借ることを約す、○検定試験の  
 答案を読む、○夜、淡路洲本より荷物来る、○引続き答案を読む、  
 ○「透視と念射」を読む、○雨、○宣光帰来る、  
 廿二日、午前、雨天、三島復来る、之に「新論」三冊を貸付す、



○蓮沼門三及び森良三郎来る、○午后、「武士道の由来」下野新聞に出づ、○阿部維巖来訪す、○「透視と念射」を読む、○黒田家より来状、○荷物到着の通知書を柳利三郎に送る、○夜、「透視と念射」を読む、

廿三日、午前、晴天、黒田家より来状、○浦谷熊吉来訪す、○女中千代を大学に遣はす、○「教界春秋」を草す、○午后、晴天、「教界春秋」を草す、○「武士道の由来」下野新聞に出づ、○竹内康二来る、乃ち之に「自刃録」を付与す、○「教界春秋」を草したりて之を印刷所に送る○「透視と念射」を読む、○夜、藤井健治郎来訪す、○「透視と念射」を読む、○縫子、春枝を拉して井上成美宅に赴く、

廿四日、午前、晴天、井上波野より来状、○岩橋遵成、補永茂助、内田清一、谷実夫、出口競来訪す、○印刷所より使者来る、○午后、曇天、小雨、「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○「透視と念射」を読む、○黒田家より来状、○乃木大将を詠ずる詩二首成る、云く、

元似楠公志節清。何人不識將軍名。

経来百戦有身在。更擲残生付育英。

聖皇晏駕志全摧。一世倒瀾今未回。

身為殉君刳腹尽。余刃刺撃萬人来。

○夜、「透視と念射」を読む、○大成中学より来状、○雨、廿五日、午前、曇天、救世軍より来状、○大学教授に関する談話、時事新報に出づ、○尾上八郎及び姉崎老母来訪す、○「透視と念射」を読む、○女中千代を区役所に遣はす、○沢田小一郎より来状、○午后、村岡素一郎、紀平正美代理、和田又男、竹内松治、来訪

す、○「透視と念射」を読了す、○「修養と通力」を読む、○佐伯常磨来訪す、○夜、永井潜の「生命論」を読む、○「吞象楼遺稿」を読む、○雨、

廿六日、午前、雨天、森良三郎来る、乃ち之を区役所に遣はす、○宮坂写真師より写真を送来る、○書状を福来友吉及び高橋宮二に送る、○勧誘状を杉森孝次郎、九鬼周造、澤邊復正、藤井種太郎、関澤純三、峯賢雅に送る、○午后、「武士道の由来」下野新聞に出づ、○黒田家及び修養団より来状、○井戸浚をなす、○書棚に堆積せる古新聞を整理す、○島本愛之助より書状と林檎壱箱を送来る、○夜、書状を紀平正美に送る、○古新聞の整理をなす、○在仏国小林照朗より絵葉書来る、○此日、富岡永馬より来状、

廿七日、午前、暴風雨、書状を文成社に送る、○「生命論」を読む、○午后、暴風雨未止、三時半頃漸く止む、○「武士道の由来」下野新聞に出づ、○詩稿を整理す、○「健全なる読書」中央新聞に出づ、○「生命論」を読む、○大江文城より来状、○夜、雨歇んで天霽る、引続き、「生命論」を読む、○「吞象楼遺稿」を読む、○黒田家より来状、○此日、裏の崖崩る、○各地方洪水、

廿八日、午前、晴天、森良三郎、藤原静一、浦谷熊吉、島本愛之助来る、○長井眞琴、原稿を携来る、○福来友吉より来状、○津幡一脩、三上参次の紹介状を携来る、○春枝、写真を携へて姉崎宅に赴く、○午后、「武士道の由来」下野新聞に出づ、○宮本和吉来談す、○勧誘状を辻清藏及び石井光躬に送る、○榎本與七郎、小西重直来訪す、○藤田丞作より来状、○岸田繁次郎来る、○白山方面に運動に出づ、○近藤壽治、塩谷温、村木維夫、今村完道、落合貞三郎、大西正太郎、生沼豊彦、東亜協会々員となる、○文

部省より答案を送来る、○夜、多木悦造より菓物沓箱を送来る、○検定試験の答案を読む、○書状を藤井健治郎に送る、○文科大學より来状、

廿九日、午前、晴天、高橋宮二、岸田繁次郎、木川又吉郎来訪す、

○検定試験の答案を読む、○九鬼周造、浮田直樹、東亜協会々員となる、○家族一同種痘をなす、○書状を多木悦造、勉強堂及び藤田丞作に送る、○午后、齋藤愛子来訪す、之に写真を贈与す、○「儒教と国民思想」中外日報に出づ、○揮毫、○一幅の書を木川又吉郎に送る、○検定試験の答案を読む、○夜、引続き答案を読む、○「吞象楼遺稿」を読む、○帰一協会及び文成社より来状、

三十日、午前、晴天、大谷大學尋源会より来状、○根本通徳、「論語集解」を携来る、○仏書の整理をなす、○「吞象楼遺稿」を読む、

○午后、引続き、「吞象楼遺稿」を読む、○書状を侯爵細川護成に送る、○古沢清明来訪す、○「武士道の由来」下野新聞に出づ、○「生命論」を読む、○文部省より答案を送来る、○夜、齋藤精輔来談す、○答案を読む、○此日、「儒教と国民思想」中外日報に出づ、

卅一日、午前、晴天、天長節、小杉熙、森良三郎、福来友吉来訪す、

○午后、二宮尊親より来状、○文成社より使者来る、○「東亜の光」(八の九)成る、○「武士道」学派を論じ、乃木大将に及ぶ、○東亜の光に出づ、○島本愛之助より来状、○紀平正美来訪す、○詩稿を整理す、○夜、吉田夫妻来る、○「吞象楼遺稿」を読む、○此頃、浦谷熊吉より坪井正五郎の演説筆記を送来る、○夜半、雨、

九月

一日、午前、雨天、答案を読む、○浦谷熊吉来談す、○縫子、すみ

れ会に多賀楽亭に赴く、○書状を藤井健治郎に送る、○葛岡敬雄より来状、○榊保三郎より電話掛る、○午后、曇天、高橋穰、岸田繁次郎、辻本卯藏、峯間信吉、補永茂助来訪す、○答案を読む、○澤邊復正、犬塚岸三、東亜協会々員となる、○夜、文科大學より来状、○答案を読む、○「吞象楼遺稿」を読む、○豪雨、

二日、午前、雨天、福来友吉より来状、○答案を読む、○「吞象楼遺稿」を読む、○「生命論」を読む、○文科大學より使者来る、○「学問と修養」新脩養に出づ、○小原兄磨より来状、○谷内正順、深作安文来訪す、○午后、税務署より通知書来る、○侯爵細川護成より「影宋本尚書正義」を送来る、○森良三郎来る、○啓成社より「日本画家大辞書」を送来る、○文部省より答案を送来る、○答案を読む、○夜、雨歇んで天未霽、○答案を読む、○「吞象楼遺稿」を読む、○此日、ベルツ去る八月卅一日を以てスツツガルトに長逝すとの報あり、享年六十八、○岡倉覚三、赤倉に歿す、享年五十二、

三日、午前、晴天、安達常正より来状、○高橋穰、福来友吉の書状を携来る、○浦谷熊吉、松信定雄、黒木安雄、辻村鑑来訪す、○答案を読む、○修養団耶麻郡支部幹事より来状、○午后、藤井健治郎、外崎覚来訪す、○答案を読む、○紀平正美宅より鯉節沓箱を送来る、○夜、答案を読む、○「吞象楼遺稿」を読む、○峯間信吉、原稿を携来る、

四日、午前、晴天、根岸福弥より来状、○書状を二宮尊親、安達常正、葛岡敬雄に送る、○田邊元来訪す、○竹内康二、自刃録を携来る、○「吞象楼遺稿」を読む、○午后、引続き、「吞象楼遺稿」を読む、○岡倉覚三の計報来る、○「漢文読本」の原稿を整理す、○藤

- 田丞作より来状、○日下部重太郎より「現代の国語」を送来る、○運動に上野方面に赴き、博品館に入る、○帰途車中湯本武比古に逢ふ、○小雨、○統一閣より使者来る、○夜、「漢文読本」の整理をなす、○「吞象楼遺稿」を読む、○此頃、国民時報より来状、「頁下部に「井上博士の祝賀会 △在職二十五年の記念」の新聞記事切抜（大正2年9月4日読売新聞）貼付」
- 五日、午前、晴天、森良三郎、富田俊夫、岡島誘、来訪す、○「私教全書」を送来る、○「教育実際社」より来状、○書状を根岸福弥に送る、○此頃、在職廿五年祝賀会の記事、各新聞に出づ、「頁下部に「益軒二百年祭」の新聞記事切抜（大正2年9月2日福岡市福岡日日新聞）貼付」○午后、書状を井芹經平に送る、○鈴木藤三郎の計報来る、○岡倉覚三の葬式に谷中に赴く、瀨尾新、河瀬秀治、山川健次郎、朝比奈知泉、今泉雄作、都築馨六、三宅雄二郎等と会見す、○「ニコニコ」雑誌の記者来りて写真を取る、○「漢文読本」を整理す、○村松喜太郎より来状、○夜、「漢文読本」を整理す、○「生命論」を読む、○日本海法会より来状、○「吞象楼遺稿」を読む、
- 六日、午前、晴天、竹内康二、「論語集解」を携来る、○久保良英より「参考心理学」を送来る、○野田義夫より来状、○縫子、鯉節を携へて藤井健治郎宅を訪ふ、○書状を河津暹に送る、○詩稿を黒木安雄に送る、○午后、姉崎益子、浦谷熊吉、藤井健治郎、岸田繁次郎、宮坂詰宗、小柳司氣太来訪す、○文科大学より「文科大学々生便覧」を送来る、○峯堅雅、椎名十三、澁江小摩策、松崎祐存、東亜協会々員となる、○書斎の整理をなす、○教科書会より書類来る、○夜、「生命論」を読む、○服部宇之吉より来状、
- 「吞象楼遺稿」を読む、○此頃対支問題勃興、○外部省政務局長阿部守太郎、刺客に斬られ、六日を以て歿す、
- 七日、午前、晴天、兒玉実徳及び安達常正より来状、○羽山好作、津端一脩、瀧田哲太郎、橘惠勝来訪す、○序文を羽山好作に送る、○午后、曇天、吉田為孝、八田三喜、小柴博来訪す、○製本屋来る、○「吞象楼遺稿」を読む、○松尾常太郎より来状、○夜、吉田熊次夫妻を招燕す、○「吞象楼遺稿」を読む、○郝京山の「談經」を読む、○此日、市民、国民大会を日比谷に開いて騷擾を極む、対支的感情の高調せるを見る、
- 八日、午前、曇天、小雨、玉利庄次郎来訪す、○書斎の整理をなす、○午后、橘惠勝、武藤儀光来訪す、○河津暹より来状、○縫子、春枝と高子を拉して吉田宅に赴く、○書状を阿部莊二に送る、○勸誘書を杉浦俊香に送る、○榎本與七郎、其三男を拉して来る、○夜、書状を山鹿高三及び若杉喬に送る、○「生命論」を読む、
- 九日、午前、晴天、婦一協会より来状、○書状を白鳥庫吉に送る、○島本愛之助来訪す、○午后、玉利庄次郎、松本亦太郎、岸田繁次郎、辻善之助、浦谷熊吉、峯間信吉、大島正徳、来訪す、○小倉進平、東亜協会々員となる、○田村もよ子、孫女を拉して来る、○夜、玉利庄次郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○書状を井芹經平に送る、○此日、井上又藏より来状、
- 十日、午前、晴天、杉浦剛太郎、加藤玄智来訪す、○製本屋来る、○書斎の整理をなす、○午后、八田三喜来訪す、○書斎の整理をなす、○竹内康二来る、乃ち之に「聖学入門」を付与す、○夜、興学会に山上御殿に赴く、○根岸福弥及び教科書会より来状、○書状を黒住宗武に送る、○此日、玉利庄次郎より使者を遣はし、

原稿を送来る、乃ち原稿を訂正して之を使者に付与す、○再び国民大会を催ふす、

十一日、午前、雨天、田中義能来訪す、○Hendrik C. Andersenより La conscience Mondiale を送来る、○和田垣博士在職二十五年記念祝賀会幹事より来状、○寛克彦より書状を添へて菓子壺箱を送来る、○書状を寛克彦に送る、○南北社より「新道徳論」を送来る、○午后、高島大圓より「噴火口」を送来る、○伊藤吉之助、辻本卯藏来訪す、○「生命論」を読む、○常磐大定より蒲鉾壺箱を送来る、○夜、引続き「生命論」を読む、○「松陰先生遺著」を読む、○中島利一郎、阿部莊二、亀井南冥先生建碑事務所及び河本教授在職二十五年記念祝賀会事務所より来状、

十二日、午前、雨天、後雨歇む、○宇井伯壽、佐々木喜市来訪す、○書状を阿部莊二、相良益次郎、黒木安雄、及び亀井南冥先生、建碑事務所等に送る、○古事類苑(地部三)を送来る、○市外電話料金式拾銭を郵便局に収む、○午后、曇天、黒木安雄より来状、○三上参次を大学に訪ひ、尋いで文科大学事務室に寄る、○狩野亨吉と電車中に会見す、○和田雅夫来る、乃ち之に写真を貸与す、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○上野竈太郎来る、有故不遇、○山本正心、蓮沼門三、及び教科書会より来状、○弘道館より「言語の研究と古代の文化」を送来る、

十三日、午前、晴天、鵜澤總明、黒木安雄及び吉田熊次より来状、○吉田熊次、浦谷熊吉来る、○玉利庄次郎、御礼の為に來る、○「乃木大将の愛読書」東京日々新聞に出づ、○吉田熊次、米国に向つて出發す、縫子、宣光と見送の為に横浜迄行く、○午后、品田俊平より書状と「心教」とを送来る、○乃木会に専修大学に赴き、

一場の講演をなす、○阪谷芳郎、石黒忠恵、徳川達孝等と会見す、○途上片岡久太郎に遭逢す、○教科書会より書類来る、○夜、阿部莊二より来状、○書状を貞金近松及び玉利庄次郎に送る、○八時頃縫子、宣光帰宅、○白井書店より「続国史大系」を送来る、○此日、中村久四郎、「諸名家孔子觀」を携来る、

十四日、午前、曇天、井芹經平より来状、○瀧田哲太郎、吉田為孝来る、○国語伝習所に大成中学に赴き、一場の講演をなす、○途上深作安文に逢ふ、○不在中尾原亮太郎、飯島忠夫、武藤儀亮、白井成允、今井辨輔等来訪す、○瀧田哲太郎再び来る、乃ち談話を筆記せしむ、○岩田僊太郎より来状、○武藤儀亮再び来る、○杉山直記より速記を送来る、○午后、貞金近松来訪す、○和田雅夫来る、乃ち談話を筆記せしむ、○井原豊作より来状、○夜、書状を山川健次郎及び岡島誘に送る、○速記を訂正す、○文成社及び弘道館より来状、○和田雅夫より筆記を送来る、

十五日、午前、晴天、古莊嘉門より来状、○杉山直喜より速記を送来る、○金港堂より「国文中朝事實」を送来る、○文成社より「正則科教授録」数冊を送来る、○講義に大学に赴く、○午后、上野竈太郎、菓子箱を携来る、○今井辨輔、岸田繁次郎来る、○「乃木大将愛読の書」大阪毎日新聞に出づ、○石井光躬、杉森孝次郎、加藤直久、清水駿太郎、東亜協会々員となる、○筆記を訂正して之を和田雅夫に東京社に送る、○「カント」に見出せる模範的生活」学生に出づ、○文科大学より来状、○小倉秀道来る、乃ち談話を筆記せしむ、○阪谷芳郎、白井成允、武藤儀亮、深作安文来訪す、○伊藤文一郎、東亜協会々員となる、○井上波野来談す、○夜、竹内康二、写物を携来る、○速記を訂正す、○尾原亮太郎来談す、



○萩之家追悼会事務所より来状、○此日、デー、シー、グリーン逝く、享年七十、

十六日、午前、曇天、森良三郎、浦谷熊吉来談す、○ナショナル社及び統一基督教弘道会より来状、○文明協会より「変態性慾心理」及び「国際商業及交通」を送来る、○原稿を整理す、○勧誘状を杉浦剛太郎、今草次、沼波武夫に送る、○午后、教科書会に文部省に赴く、○帰途荻野伸三郎と邂逅す、○文科大学及び外崎覚より来状、○女中千代を遣はして原稿を浦谷熊吉に送る、○夜、研究、○「山草堂集」を読む、

十七日、午前、晴天、三浦覚藏より来状、○学習院に赴く、○藤井健治郎より小包を送来る、○「師範修身」二百五十部の奥附を岩田僊太郎に送る、○午后、研究、○婦一協会に上野精養軒に赴き、「原始儒教の倫理」を講演す、○ソンダラント、マツカウレー等と会見す、○夜、十時頃帰宅、○文科大学及び中島利一郎より来状、

十八日、午前、晴天、富田俊夫来る、○相良益次郎より来状、○在北京有賀長雄より「観奕閒評」を送来る、○借本の事に就いて電話にて前田侯爵と交渉す、○午后、講義に大学に赴く、○箭内亘と大学に会見す、○中島利一郎と会見す、○夜、書状を根岸福弥及び井芹經平に送る、○勧誘状を中島利一郎及び高山昇に送る、○文部省より来状、

十九日、午前、晴天、補永茂助、深作安文、浦谷熊吉、岸田繁次郎、白井成允、松田傳藏、横井泰明来訪す、○角田松壽来る、乃ち談話を筆記せしむ、○「新道德論者は詭弁家である」美術正論に出づ、○午后、女中千代を前田侯爵家に遣はし、「枢密要論」を借用す、

○「枢密要論」を読む、○文科大学の使者来る、乃ち之に追試験の問題を付与す、○上野竈太郎、吉田雪子来る、○浦谷熊吉より来状、○勧誘状を吉田寅藏及び吉田良春に送る、○夜、勧誘状を箭内亘及び石川勤照に送る、○阿部莊二より来状、○伊藤吉之助来談す、

二十日、午前、晴天、角田松壽より筆記を送来る、○講義に大学に赴く、○田中義成を史料編纂掛に訪ふ、○午后、島本愛之助来訪す、○文成社より使者来る、○筆記を訂正す、○教科書会より書類来る、○帝国学士院より来状、○勧誘状を池内宏、青戸波江、石田収藏、栗田三吾、安達常正に送る、○春枝、益之進、高子と共に吉田宅に赴く、○小倉秀道より筆記を送来る、○上條友義及び古屋古彦より来状、○夜、書状を相良益次郎及び阿部莊二に送る、○筆記を訂正す、○書状を文成社に送る、○大八洲学会より来状、

廿一日、午前、曇天、武藤儀亮外二名より来状、○松浦一、小谷重、得能文来訪す、○大槻快尊、鯉節老箱を携来る、○午后、製本屋来る、○丁酉倫理会に帝国教育会に赴き、「芸術と道德」を演述す、聴衆約三百人、○夜、丁酉倫理会員と多賀楽亭に会食す、○「枢密要論」及び「甲陽軍艦」を検閲す、○此日、河原赫一より来状、○鶏卵箱を紀平正美に送る、

廿二日、午前、雨天、講義に大学に赴く、○午后、晴天、書状を服部宇之吉に送る、○女中千代を吉田静致宅に遣はし、点数を送る、○山内繁雄、Frederick Starrと共に来訪す、○高橋宮二来る、○不参届書を宮内省に送る、○製本屋来る、○筆記を訂正す、○縫子、姉崎及び吉田宅に赴く、○文科大学より答案を送来る、○在伯林野上俊夫より絵葉書来る、○藤本龍吉及び久保田

治一郎より来状、○渡邊徹来訪す、○上田萬年より来状、○夜、文成社より来状、○書状を上條友義及び古屋古彦に送る、○原稿を小倉秀道に送る、○乃木会より来状、

廿三日、午前、晴天、乃木会より速記を送来る、○在米国姉崎正治及び久保良英より絵葉書来る、○Berliner 夫妻、Prof. Wundt の紹介状を携来る、○山内繁雄より来状、○勧誘状を宮本和吉、岡田哲藏及び権田雷斧に送る、○浦谷熊吉来談す、○午后、山崎洋服店員来る、○岸田繁次郎来る、○河合弘民、高山昇、大澤定吉、吉田寅藏、石川照勤、東亜協会々員となる、○勧誘状を吉田庫三及び西ヶ谷可吉に送る、○教科書会より来状、○貞金近松来談す、○運動に音羽方面に出づ、途上大塚保治及び夏目漱石に逢ふ、○文科大学より試験の答案を送来る、○日本伝道部より「モルモン経」を送来る、○印刷所より「東亜の光」口絵を送来る、○夜、竹内康二来る、乃ち之に「枢密要論」二冊を付与す、○「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○追試験の答案を読む、

廿四日、午前、晴天、秋季皇靈祭、澁澤栄一、阿部莊二及び鶴澤總明より来状、○追試験の成績を文科大学に送る、○島本愛之助、菓物菴籠を携来る、○「教界春秋」を草す、○山崎洋服店員来る、○午后、山内繁雄来訪す、○「教界春秋」を印刷所に送る、○根岸福弥及び富山春山より来状、○阿部莊二より「枢密要論」を送来る、○夜、哲学会及び心理学会の合同会に大学山上御殿に赴く、○不在中峰間信吉来訪す、○富山房及び文成社より来状、廿五日、午前、晴天、書状を河原赫一及び藤本龍吉に送る、○女中千代を大学に遣はす、○文部省の使者来る、○書状を福岡県教育会長由布惟義に送る、○勉強、○午后、講義に大学に赴く、○夜、

神道談話会に山上御殿に赴く、○婦一協会より来状、○Günther Jacoby より結婚の通知書来る、○中村久四郎より「孔子祭典会々報」第一号を送来る、○帝国大学より「大日本史料」一冊を送来る、○史料編纂掛より「燕台風雅」を送来る、

廿六日、午前、晴天、教員検定委員会より来状、○高子、遠足に道灌山方面に赴く、○岡島誘、浦谷熊吉来訪す、○「燕台風雅」を閲す、○文学士柴田道淳、東亜教会々員となる、○午后、教科書会に文部省に赴く、○雨、○素行会に宗三寺に赴き、「素行の兵学の系統に就いて」一場の講演をなす、○山鹿淺次郎、山鹿旗之進、松浦厚、中村弥六、柳谷謙太郎等と会见す、○不在中大嶋正徳来訪す、松宮助之丞、富田俊夫より来状、○夜、雨天、書状を富田春山、富田順吉及び井上健兒に送る、

廿七日、午前、雨天、一戸直藏及び神道談話会より来状、○講義に大学に赴く、○上田萬年を学長室に訪ふ、○午后、澁沢邸に飛鳥山に赴く、サンダーランド、マツコーレー等来会す、○夜、哲学及び哲学史の卒業生の招待に大学第一学生集会所に赴く、○神奈川県より「講演集」三冊を送来る、○黒木安雄より詩稿を送来る、○此日、井上順吉より来状、

廿八日、午前、晴天、井上健兒及び加州サンノゼ日本寺独立仏教会等より来状、○花見喜代次、蓮沼門三の書状を携来る、○弘田直衛来る、乃ち談話を筆記せしむ、○吉田静致、硯箱を携来る、○古城貞吉、小谷重来訪す、○「徳操の破壊者」婦人画報に出づ、○午后、河合清太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○二天記を読む、○林勃爾来る、○「日本武士道学派」神奈川県講演集に出づ、○夜、二天記及び肥後文献叢書を読む、○此日、中川元逝く、享

年六十三、

廿九日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○竹内康二、写物を携来る、  
○岸田繁次郎、日本学会の案内状を携来る、○午后、岸田繁次郎、  
白井成允、黒澤逸郎、加藤玄智、来訪す、○書状を井上健兒に送る、  
○由布惟義及び井芹經平より来状、○文学士柴田道淳、全名和長  
正、全小林好日、并に安達常正、東亜協会々員となる、○補永茂  
助、今井久藏、竹内康二来る、○古瀬類太より来状、○文科大学  
より来状、○夜、書状を井芹經平、根岸福弥及び延寿館等に送る、  
三十日、午前、晴天、白鳥庫吉より来状、○森良三郎、浦谷能吉、  
新村喜一郎来る、○午后、女中千代を東海銀行に遣はす、○姉  
崎宅を訪ひ、尋いで吉田宅に赴き、更に又井上成美宅に到る、  
○Librarie orientale et americaine より来状、○博文館より「武  
士道叢書」上巻第十一版の奥附五百枚を送来る、○勧誘状を梅澤  
和一到る、○夜、中島利一郎来る、肥後文献叢書第六巻を貸附す、  
○文成者及び教科書会より来状、○「東亜の光」(八の十) 成る、  
○岸田より「東亜の光」拾部を送来る、○「漢民族の特性」東亜  
の光に出づ、

十月

一日、午前、曇天、河合清太郎より書状と原稿とを送来る、○学習  
院に赴く、○「乃木院長記念写真帖」を受納す、○不在中吉田雪  
子来る、○午后、原稿を教育実務社に送る、○書状を古瀬類太に  
送る、○教授会に山上御殿に赴く、○夜、日本学会に出づ、○不  
在中森良三郎来る、○竹内康二、写物を携来る、○使者を史料編  
纂掛に遣はし、「益軒叢書」を借用す、○文科大学より林泰輔の  
論文を送来る、○文成社より使者来る、○若木廣良、花田仲之助、

平田竹造より来状、○書状を文部省検定委員会及び文成社に送る、  
○夜半甘木浄土寺より電報来る、

二日、午前、晴天、野明儀右衛門より来状、○八、三〇新橋発、宣  
光及び蓮沼門三送来る、○電報を甘木浄土寺に送る、○午后、曇天、  
撰氏二十六度半、篤信一世用財記、益軒歴年記、貝原世譜、貝原  
年譜等を読む、○夜、「東亜の光」を読む、○留守宅、國民新聞  
記者来訪す、

三日、午前、曇天、「東亜の光」を読む、○門司に着し、日本亭に  
休憩し、貝原益軒を詠ずる詩を賦す、云く、

博識高風一代賢。育英之法着先鞭。  
何論述作期通俗、德化隆々二百年。

小倉通過の際松田孫治郎来訪す、○午后、一、三八博多着、出迎  
人多し、女子師範校長永瀬伊一郎、師範教諭山下房吉亦来迎す、  
直に東林寺に赴き、尋いで井上健兒宅に到る、○純吉、健兒等と  
共に貝原益軒、亀井南冥、全昭陽等の墓に謁し、又光雲神社に詣し、  
更に転じて聖福寺に赴く、○不在中吉田豊及び其他来訪す、○夜、  
根岸福弥、藤本萬治来訪す、○留守宅、電話使用料金拾六円五拾  
錢を郵便局に納む、

四日、午前、雨天、後雨歇む、三澤科、谷慶祐来訪す、○九、三〇  
貝原益軒二百年祭の式場に臨む、来会せる学生々徒約壹萬五千、  
外に來賓約五六百名、式畢りて遺墨展覽場に赴き、尋いで公会堂  
に入り、午餐を喫す、○佐藤平太郎(市長)、秦傳次郎(助役)、  
由布惟義(教育会長)、中村能道(高女長)、小松倍二(修猷館長)、  
吉田豊、齋藤正実、武谷水城(軍医監)、山田方策(一名九如)、  
竹田雅弘(福岡日々記者)、廣瀬玄銀、入沢京太郎、湯淺俊太郎、

貝原謙等と会見す、○帰途古川写真師宅に赴き、親類一同と撮影す、○午后、二時、光明座に赴き「貝原益軒先生を追懐す」を演述す、聴衆約一千七百名、○夜、二日市に赴き、延寿館に投ず、○留守宅、反省社より御礼を、宮崎孝太郎より葡萄を送来る、○此日、「武士道叢書」上巻（第十一版）五百部の奥附を博文館に送る、○「支那の将来」新愛知に出づ、

五日、午前、晴天、秋吉音治、富田貞松来る、乃ち共に機道に由りて甘木に赴き、直に墓参をなし、実父三十三回忌の法事に富田春山宅に到る、衆と共に庭前に撮影し、午餐を喫す、○午后、中学校に赴き、一場の講演をなす、聴衆約六百名、畢りて甘木有志者の歓迎会に臨む、○郡長堀狷介、町長千原彦平、法泉寺住職手柴一海、女子実業学校長島田寅次郎、中尉池野近吉、等と甘木に会見す、○夜、二日市に帰る、○井芹經平已に延寿館に來り待つ、○留守宅、上宮教会員来る、

六日、午前、晴天、齋藤壽七、全儀八、全繁太郎来る、○井芹經平と共に八、五九分発の汽車にて出発す、○車中九州日々の記者後藤一郎來迎す、○午后、一二、一三熊本市着、來迎者多し、直に錦山神社に参り、尋いで研屋支店に投ず、○肥後弘道会に武徳殿に赴き、「建国の大義と国民の覚悟」を演述す、聴衆一千数百名、畢りて在熊文学士の歓迎会に精養軒に莅む、「頁下部に「文学士会歓迎会」の新聞記事切抜貼付」○夜、師範学校に赴き、修養に關する演説をなす、○留守宅、「中学修身」四百部及び「実業修身」壹百部の奥附を文学社に付与す、

七日、午前、晴天、井芹經平と共に武蔵塚に参拝す、○高等工業学校を參觀し、尋いで済々黌に赴き、生徒に対し、一場の講演をな

す、○午后、武徳殿に赴き、「日本民族の特性と神道」を演説す、○夜、弘道会主催の歓迎会に臨む、來会者は、古莊嘉門、江口昌條（少将）、山本登喜次（少将）及び県知事等、「頁下部に「井上博士歓迎会」の新聞記事切抜貼付」

八日、午前、晴天、古莊嘉門、宇野東風、佐々木宗要、白壁傑次郎等來訪す、○熊本中学に赴き、生徒に対し、一場の講演をなす、○高等学校に到り、生徒の請に応じ、「人生と修養」を演説す、○高等学校に於て午餐をなす、○午后、武徳殿に赴き、「武士道と日本の将来」を演述す、○五、二六出發、來送者頗る多し、○熊本にて会見せし人々は、白壁傑次郎、山田珠一（市長）、野田寛、宇野東風（陸軍教授）、小豆澤英男、小島伊佐美、山本登喜次（少将）、江口昌將（少将）、後藤一郎（記者）、小早川秀雄（九州日々主筆）、杉山岩三郎（五高教授）、中津親義（図書館長）、石原醜男（済々黌教諭）、新莊義之（女子師範長）、佐々木宗要、會田由義（高女長）、今井精一（済々黌教諭）、弘丑彦、沼田博雄（玉名中學校長）、西島千秋、金澤正雄（視学官）、井島政吉（教諭）、長江虎臣（幹事）、松浦寅三郎（五高長）、長江藤次郎、千田一十郎（幹事）、羽田貞義（師範長）、住田正章、江部淳夫、村上龍英、福留亀太郎（幼年長少佐）、古莊嘉門、村上二郎、国武猪太郎（熊本日々主幹）、中崎辰九郎及其他学生等、○夜、八、三二、二日市着、純吉、健兒、淳、磯野七平、秦傳次郎、谷慶祐來り待つ、○留守宅より郵便物来る、

九日、午前、晴天、齋藤儀八来る、乃ち純吉と共に宰府に赴き、先づ菅廟に謁す、西高辻信禪、小野隆助等と会見す、尋いで座親玄山を訪ひ転じて祖先の墳墓に展し、更に又西正寺に到り、最後に



齋藤儀八宅に於て午餐をなす、○午后、二日市に帰り、一、二、五七  
 出發す、○汽車博多を過ぎる時見送人多し、○留守宅、浦谷ふみ  
 来る、

十日、午前、晴天、新聞を読む、○午后、引続き新聞を読む、  
 ○夜、八、二五新橋着、宣光来る、真金近松亦自動車を以て迎へ  
 来る、乃ち自動車にて帰宅、○文部省、素行会及び木村鷹太郎よ  
 り来状、○不在中砂崎徳三、橋本文壽、大倉喜八郎、及び文科大  
 学等より来状、○久保良英、吉田熊次、矢吹慶輝より絵葉書来る、  
 ○姉崎正治より Official Register of Harvard University を送來  
 する、○ Schopenhauer-Gesellschaft より来状、○丸善より Rudolf  
 Fucken, Geistige Strömungen der Gegenwart 及び H. Cornelius,  
 Einleitung in die Philosophie を送來する、

十一日、午前、曇天、補永茂助来訪す、○縫子を三井銀行に遣はす、  
 ○不在中の新聞を読む、○機会に関する談話「実業之日本」秋季  
 増刊に出づ、○「大日本仏教全書」を送來る、○桂公爵、昨十日  
 を以て長逝すとの訃報あり、享年六十七、○袁世凱、昨十日を  
 以て中華民国第一回の大總統に選挙せられ、列国に認定せらる、  
 ○午后、不在中の新聞を読む、○姉崎益子来る、○夜、教員検定  
 委員会より来状、○大日本通信中学校より報告書を送來る、

十二日、午前、晴天、尾田信忠妻の訃報来る、○葉山萬次郎、補永茂助、  
 浦谷熊吉、吉岡香山来訪す、○羽山好作、「常識教育の實際的施  
 設」を携來る、○和辻哲郎、「ニイチエ研究」を携來る、○井上  
 末より小包を送來る、○午后、岸田繁次郎来る、○箭内亘、山川  
 智應、内藤濯、續有節、石塚龍学、大久保太實、奈波諦観、清水  
 谷善照、村澤喜代人、中島利一郎、佐々木勝順、清川圓誠、石澤

寛一、辰巳小次郎、東亜協会々員となる、○夜、帝国学士院に赴  
 く、○羽田貞義より来状、○此日、大野豊太(酒竹)逝く、享年  
 四十二、○信州松代に於て佐久間象山の五十年祭を挙行す、

十三日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○森良三郎来る、○金港  
 堂より原稿を送來る、○午后、曇天、書状を砂崎徳三及び鹿田静  
 七に送る、○所得税金三四、六三及び府税、市税金六、九三、合計  
 金四一、五六を郵便局に納む、○岩橋遵成、島本愛之助来訪す、  
 ○中島利一郎より来状、○楠本武俊、東亜協会々員となる、○勸  
 誘状を大谷光瑞に送る、○書状を文成社に送る、○「女子修身」  
 を修正す、○文科大学より来状、○夜、井上健兒より鯛壺包を送  
 來る、○加藤駒二より来状、

十四日、午前、晴天、和辻哲郎より大学院報告を送來る、○詩稿を  
 黒木安雄に送る、○勸誘状を藤岡好古、山田新一郎に送る、○伊  
 藤吉之助来訪す、○「枢密要論」を前田侯爵家に返納す、○書状  
 を平田竹造に送る、○井芹經平、北原種忠及び中塚喜一郎の書状  
 を読む、○カステイラ壺箱を押田すが子に送る、○祖先の命日を  
 考ふるに、

富田俊達(明治十四年十二月三十一日(旧十一月十一日)  
 歿、享年五十九、

船越よし一(萬延元年十月二十五日歿、享年三十九、(法名  
 釈妙教信女)

船越芳哉(眞如釈靈明信士)一慶應元年乙丑六月念七、  
 船越亮明(眞如釈良海居士)一明治七年七月五日歿、

○益軒祭に於ける講演の大意は、福岡日々新聞及び九州日報に出  
 で、熊本弘道会講演の大意は九州日々新聞及び九州新聞に出づ、

○午后、曇天、書状を井上健兒、富田春山、井芹經平、齋藤儀八、小豆澤英男に送る、○島本愛之助来る、○帰京届書を文科大学に送る、○勸誘状を新村喜一郎及び加藤駒二に送る、○齋藤精輔、宇野哲人、伊藤吉之助来訪す、○運動に大塚方面に出づ、○夜、小雨、井上健兒、文科大学等より来状、○此日、法学博士古賀廉造、第一審に於て有罪と決せられ、懲役三年に処せられる、○雨、十五日、午前、雨天、丸善より来状、○学習院に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○福岡県教育会及び松尾常太郎より来状、○夜、「生命論」を読む、○此日、博文館より印税を送来る、○十六日、午前、晴天、砂崎徳三及び稻見明精より来状、○小倉秀道より原稿料を送来る、○研究、○浦谷熊吉来訪す、○午后、雨天、講義に大学に赴く、○「追懷益軒先生」九州日報に出づ、○式部職及び学習院より来状、○夜、杉山直喜来る、乃ち談話を速記せしむ、○書状を式部職に送る、○文成社及び新東洋学協会より来状、○此日、縫子、瀧本志げ及び齋藤あい子を訪ふ、○十七日、神嘗祭、午前、雨天、帝国学士院、齋藤たき子及び太田峯三郎より来状、○深作安文、岸田繁次郎、浦谷熊吉及び上宮教会員来る、○尾上八郎より松茸を送来る、○佐々木信綱より書状と「戸田茂睡論」を送来る、○福島邦一、寺内淳二郎、藤谷深助、山崎良平、山東善之進、元田龍佐、佐藤常、多田淳良、東亜協会々員となる、○午后、曇天、縫子、跡見学校に赴く、○書状を浦谷熊吉及び博文館に送る、○製本屋来る、○竹内康二来る、○松浦寅三郎より来状、○勸誘状を松本眞弦、廣田直三郎、江村弘、松本君平に送る、○夜、勉強、○早稲田大学創立三十年の祝賀式を行ふ、

十八日、午前、曇天、杉山直喜、速記を携来る、○済生会及び矢野茂より来状、○講義に大学に赴く、○在米国吉田熊次より繪葉書来る、○速記を訂正す、○午后、曇天、引続き速記を訂正す、○角田松壽来る、乃ち談話を筆記せしむ、○岸田繁次郎来る、○鹿田静七より小包を送来る、○夜、齋藤儀八より来状、○速記を訂正す、

十九日、午前、曇天、桂公爵の葬式に増上寺に赴く、山田陽朔、和田維四郎、山田珠一、三宅秀、白鳥庫吉、市村瓊次郎等と会见す、○不在中補永茂助、梨を携来る、○上條友義、古屋吉彦より来状、○大日本図書会社より「職員録」を送来る、○午后、半晴、文明協会より「動力」及び「政党社会学」を送来る、○矢野茂、浦谷熊吉来訪す、○志田義秀より書状と「崇徳院御集」とを送来る、○速記を訂正す、○黒木安雄より詩稿を送来る、○夜、速記を印刷所に送る、○有馬祐政来訪す、○竹内康二、写物を携来る、○二十日、午前、晴天、牧野外相より招待状来る、○講義に大学に赴く、○午后、辻元卯藏より東亜協会に印税を送来る、○吉田雪子より来状、○岸田繁次郎、学生山本某来訪す、○書状を浦谷熊吉、富田春山及び図書会社に送る、○夜、守田良太郎来訪す、有故不遇、○「生命論」を読む、村松清陰より来状、○「吞象楼遺稿」を読む、○此日、隣家地所明け渡しの際、初めて裁判沙汰となる、

廿一日、孔子生誕日、午前、曇天、田中次郎父の訃報来る、○浦谷熊吉、岸田繁次郎、山本卯一来る、○書状を佐々木信綱、阿部莊二及び志田義秀に送る、○藤井健治郎より松曹老籠を送来る、○新村喜一郎、中津親義、小野藤太、藤岡好古、東亜協会々員となる、○押田すが子来る、○午后、文科大学事務室に赴き、尋

いて文部省展覧会に上野に到る、小林正策及び松田湛堂に逢ふ、  
 ○夜、孔子誕辰会に上野精養軒に赴く、林泰輔、星野恒、建部遯  
 吾、澁澤榮一緒氏の講演あり、○上宮教会に赴き一場の講演をな  
 す、聴衆壹百名、○不在中小谷重来訪す、○帝国学士院、文成社  
 及び青山胤通等より来状、○枢密要論を阿部莊二に送返す、

廿二日、午前、曇天、鹿田静七より「林塘集」を送来る、○学習院  
 女学部へ赴く、○丸善より Rudolf Eucken, Der Kampf um einen  
 geistigen Lebensinhalt を送来る、○縫子、三越及び其他に買物  
 に赴く、○岸田をして田中次郎父の葬式に会せしむ、○午后、鯉  
 節を大倉喜八郎に、裏地と帯上げとを笹川老母に送る、○宗教大  
 会準備会に上野精養軒に赴く、河瀬秀治、矢野茂、本多日生、五  
 島盛光、柴田禮一等と会見す、○夜、九時半頃帰宅、○不在中小  
 谷重来訪す、○黒田家より来状、

廿三日、午前、晴天、大倉喜八郎より来状、○角田松壽より筆記を  
 送来る、○原稿を浦谷熊吉に送る、○女中千代を大学に遣はす、  
 ○研究、○文科大学の使者来る、乃ち之に論文二篇を付与す、  
 ○吉田雪子来る、○午后、講義に大学に赴く、○夜、美学研究会  
 に山上御殿に赴く、瀧精一の講演あり、○不在中峯間信吉来る、  
 ○小雨、○此日、菓子箱を押田翼宅に送る、○宮内省の御招待状  
 を受取る、

廿四日、午前、晴天、正勝、遠足に鎌倉に赴く、○浦谷熊吉、島本  
 愛之助、峯間信吉、小谷重来訪す、○千葉鑛藏より「泰西思潮」  
 第一輯を送来る、○午后、帝国学士院委員会に山上御殿に赴く、  
 ○阿部莊二より来状、○峯間信吉、使者を遣はし、書状を送来る、  
 ○守田良太郎来訪す、○井上健兒より写真を送来る、○夜、宮本

和吉、上野直昭来訪す、

廿五日、午前、晴天、勸誘状を若杉喬及び羽石重雄に送る、○峯間  
 信吉の使者来る、乃ち之に原稿を付与す、○「教界春秋」を草す、  
 ○井上成美より林檎を、姉崎老母より菓子を送来る、○縫子、高  
 等師範運動会に赴く、○砂崎徳三より来状、○午后、「教界春秋」  
 を草し了りて之を印刷所に送る、○高津伊兵衛より来状、○丁酉  
 倫理会に多賀羅亭に赴く、○夜、縫子、雪子及び春枝と共に帝劇  
 に活動写真を観る、

廿六日、午前、晴天、長野惟郷、岩田僊太郎、秦政二郎より来状、○八、  
 三八新橋発の汽車にて御殿場に赴く、車中大澤謙二及び弘田長に  
 遭遇す、○午后、一二、四七御殿場着、郡教育会に於て「日本民  
 族の特性と教育」を講演す、○稻見明精、砂崎徳三、影山勝、山  
 出半次郎、飯田林平等と御殿場に会見す、○四、四五出発、車中佐々  
 木忠三郎と会談す、○夜、十時頃帰宅、○不在中岸田蒔夫、津金  
 馨、田中義能、補永茂助、谷山恵林、峯間信吉来訪す、○野田義  
 夫、高原謙次郎、竹下寅次郎、田平寛行より来状、○縫子、大倉  
 喜八郎七十七の賀の祝に帝劇に赴く、○此日、在羅馬市春山作樹、  
 高原操より絵葉書来る、

廿七日、午前、曇天、日本宗教大会より来状、○秦政二郎より香魚  
 壱箱を送来る、○家庭の写真、婦人画報に出づ、○野田義夫より「国  
 民性の訓練」を送来る、○村上一郎及び岸田繁次郎来訪す、○書  
 状を峯間信吉に送る、○大谷光瑞、吉松武通、松本重彦、紹慶密  
 應、東亜協会々員となる、○写真を井上健兒、富田春山、富田純  
 吉、井上淳、吉武誠に送る、○午后、富岡永馬より来状、○吉岡  
 郷甫、島本愛之助、伊藤吉之助、補永茂助、山本卯一來訪す、○「乃

木大将と武士道の光り」教育実驗界に見ゆ、○岸田繁次郎、会計報告書を携来る、○伊澤修二来る、○福岡県教育会本部及び西山重太郎より来状、○光風館より使者来る、○原稿を訂正す、○出口競来る、○夜、鈴木善太郎来訪す、○「女子修身」を訂正す、○文成社より来状、○書状を古屋吉彦に送る、

廿八日、午前、曇天、福岡永馬より林檎壱箱を、藤井健治郎より奥附を、福岡県教育会本部より速記を送来る、○勧誘状を山田三良、弘津説三、柴田駒三郎、福岡永馬に送る、○浦谷熊吉、矢野茂、来訪す、○書状を文成社に送る、○稻見明精、砂崎徳三より来状、○午后、雪子、正勝、高子と共に文展に上野に赴く、○杉浦大藏、島本愛之助及び栢樹知成より来状、○西河龍治妻の訃報来る、○勧誘状を森岡常藏、永井道明、西河龍治、金子銓太郎、簡野道明、横山栄次、赤司鷹一郎、谷山初七郎、諸橋轍次、朝吹英二、横井時雄に送る、○書状を文成社に送る、○夜、三澤糾より原稿を送来る、○雨、○研究、

廿九日、午前、晴天、学習院に赴く、○「師範修身」三百部の奥附を晩成処に付与す、○書状を秦政二郎、及び野田義夫に送る、○午后、書状を福岡永馬及び岸田繁次郎に送る、○「東亜協会々員名簿」を島本愛之助に送る、○香奠料を西河龍治に送る、○香奠料を封入せる書状を田中次郎及び岡野義三郎に送る、○勧誘状を砂崎徳三に送る、○書状を大浦大藏に敦賀に送る、○金参丹を封入せる書状を若溪会に送る、○矢野茂及び岩田僊太郎より来状、○書状を岩田僊太郎に送る、○勧誘状を大谷光演及び神保辨静に送る、○夜、「生命論」を読む、○穂積陳重より来状、○教員檢定委員会及び文成社より来状、

三十日、午前、晴天、古川勝隆及び小石川区有志者より来状、○書状を栢樹知成に送る、○浦谷熊吉来談す、○研究、○午后、講義に大学に赴く、○福永俊良より来状、○四宮兼之来訪す、○夜、訴訟事件に付取調をなす、○書目を作る、

三十一日、午前、晴天、行田久藏より来状、○高橋正熊来訪す、○天長節の宴会に宮中に参内す、○午后、岸田繁次郎、山口英爾、角田松壽来る、○服部宇之吉及び東大寺より来状、○加藤駒二、内藤武彦、藤本萬治、西依一六、東亜協会々員となる、○「東亜の光」(八の十一)成る、○「活社会の活教訓」東亜の光に出づ、○夜、松宮觀山の「学論」を読む、○文部省より「第三十九年報」を送来る、

## 十一月

一日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○上官教員、御礼の為に来る、○三井銀行に赴き、河口某と会談す、○午后、車中棚橋絢子と会談す、○姉崎老母来談す、○佐藤三吉在職廿五年の祝賀式に植物園に赴く、○不在中浦谷熊吉、影山勝来る、○帝国学士院及び文科大学より来状、○夜、藤井健治郎より来状、○「三教会同を誤解する勿れ」教育の実際に出づ、

二日、午前、晴天、森良三郎、浦谷熊吉、津金馨、田邊頼眞、高橋喬松来訪す、○益永忠雄、小野清秀の書状と硯石とを携来る、○野田義夫より来状、○大島良策来る、乃ち家屋及び物品保険金合計金四拾壱円四拾銭を払込む、○辻本卯藏来談す、○午后、哲学会に大学に赴く、○中外日報記者千葉鼓堂と会見す、○押田すが子及び影山勝来訪す、○不在中押田三郎、岸田繁次郎来訪す、○舞台協会より来状、○在米国吉田熊次より絵葉書来る、○夜、



- 岸田繁次郎来る、○「学論」を読む、○此日、成瀬仁藏来訪す、
- 三日、午前、晴天、中学郁文館に赴き、生徒の為に「明治天皇の御聖徳に就いて」一場の講演をなす、○成瀬仁藏より原稿と書状とを送来る、○不在中津端一脩、御礼の為に来る、○教育実際社より使者来る、○南葵文庫、修養団本部及び時事彙存社より来状、
- 奥藤謹治より小包を送来る、○午后、新宮利朗、森田卓立、足立四郎吉及び文成社員来る、○金式円四拾式銭の為換と小包とを鹿田静七に送る、○夜、書状を小野清秀、鶴澤總明、及び水澤寺執事に送る、○「女子修身」を訂正す、
- 四日、午前、晴天、阿部東作来訪す、○甘木より写真を送来る、
- 森良三郎来る、○所得税金參拾四円六拾式銭、府税、市税金拾參円七拾壹銭、府税、市税金六円九拾參銭合計金五拾五円式拾六銭を郵便局に納む、○午后、深作安文、島本愛之助、武藤儀光、岸田繁次郎、浦谷熊吉来訪す、○「古事類苑」(宗教部)を送来る、
- 足立四郎吉より来状、○夜、田原源三郎及び本多日生等より来状、○此頃村上憲吉、東亜協会々員となる、
- 五日、午前、晴天、学習院に赴く、○松本源太郎と女学部にて会談す、
- 午后、教授会に山上御殿に赴く、○中島服部二教授と共に日本宗教大会に築地精養軒に赴く、○阪谷芳郎、床次竹二郎、柴田禮作、改野耕三、田井正一、斯波淳六郎、ケーアルン、大橋留吉、阿部東作、龍淵謙道、三原俊栄、海老名弾三、小崎弘道、元田作之進、松村介石、等と会見す、○夜、九時頃帰宅、○帝国学士院より来状、○不在中吉田雪子来る、
- 六日、午前、晴天、研究、○午后、講義に大学に赴く、○在米吉田熊次より絵葉書来る、○野田禮雄より来状、○文部省より答案を送来る、○宮内省観菊御宴の招待状来る、○姉崎正治より印刷物を送来る、○夜、検定試験の答案を読む、
- 七日、午前、雨天、津金馨より来状、○検定試験の答案を読む、
- 島本愛之助、白井成允、今村勝一、国分まさを、浦谷熊吉、岸田繁次郎、堀謙徳来訪す、○福岡県知事より書状と木盃壹箇とを送来る、○午后、齋藤精輔、新村喜一郎来る、○答案を読む、
- 日本宗教大会に於ける演説の概要、諸新聞に出づ、○夜、九鬼隆一の招待を受けて其邸に赴く、水野練太郎、三上參次、中川忠順亦来る、○佐藤三吉より来状、○Die Geisteswissenschaften herausgegeben von Dr. Otto Buek und Dr. Paul Herreを送来る、
- 此日、在米吉田熊次より写真帖を送来る、○読売新聞社より来状、(頁下部に「勲臣烈士合祀(七日発)左の命令あり」の新聞記事切抜貼付(見出しの後に「北京」と筆書きあり))
- 八日、午前、晴天、宗教大会に関する評論、諸新聞に出づ、○研究、
- 午后、亀井忠一、印税を携来る、○金五円を和田垣謙三在職廿五年祝賀会の為に払込む、○書状を茗溪会及び帝国学士院に送る、
- 読売新聞創立四十年記念講演会に基督教青年会館に赴き、「宗教と教育との関係」を演述す、○夜、読売新聞社の招燕に築地精養軒に赴く、本野大使、石黒景文、富井政章、横井時敬、嘉納治五郎、島本抱月、遠藤隆吉等と会見す、○文成社及び平田竹造等より来状、
- 九日、午前、曇天、浦永茂助、岸田繁次郎及び黒田子爵家より来状、
- 研究、○益永忠雄、浦谷熊吉来る、○原六郎より案内状来る、
- 野田禮雄より小包を送来る、○午后、東亜協会講演大会に大学に赴く、聴衆約四百名、○夜、東亜協会評議員会を山上御殿に開

く、○女子英学塾教授辻村靖、東亜協会々員となる、○今井宗久より来状、○「日本仏教全書」を送来る、○此日、岸田繁次郎より報告書を送来る、○不在中瓜生喜三郎来る、

十日、午前、晴天、文部省に赴き、教員検定試験を行ふ、○午后、六時結了、合格者総計拾九名、不合格者名、○夜、風、藤井健治郎と共に帰る、○不在中本野英吉郎、磯野潤来訪す、○吉田熊次より「教育教授の諸問題」を送来る、

十一日、午前、晴天、森良三郎、浦谷熊吉来談す、○藤井健治郎来る、乃ち共に昼食をなす、○午后、新村喜一郎、九鬼周造来訪す、○書状を堀謙徳、貞金近松に送る、○岸田繁次郎、宮本覚純来訪す、○諸橋轍次、富岡永馬、東亜協会々員となる、○夜、速記者山田勇来る、乃ち談話を速記せしむ、○山鹿高三及び国華社より来状、○此頃岸田繁次郎を末日聖徒耶穌基督教会に遣はす、○書状を田原源三郎に送る、

十二日、午前、益原忠雄より来状、○貞金近松来る、乃ち昼食を共にして談話す、○午后、序文を足立四郎吉に送る、○九鬼周造来訪す、○帝国学士院に上野に赴く、○夜、十時頃帰宅、○不在中齋藤あい子来る、○貞金近松より来状、○修養団より来状、

十三日、午前、晴天、大野清太郎より来状、○縫子、間千代宅に赴く、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、○堀謙徳より来状、○補永茂助来訪す、○午后、引続きMax Verworn を読む、○講義に大学に赴く、○夜、書状を読売新聞編輯局に送る、○「女子修身」を訂正す、○夜半、文部省の使者来る、

十四日、午前、雨天、津金馨より来状、○浦谷熊吉来談す、○「女子修身」を訂正す、○縫子、吉田宅に赴く、○午后、小西栄三郎

来訪す、有故不遇、○岩波茂雄、加藤駒二来訪す、○角田松壽来る、乃ち談話を筆記せしむ、○文科大学の使者来る、乃ち金参円を付与す、○中山宗太郎より速記を送来る、○「女子修身」を訂正す、○夜、「女子修身」を訂正す、○速記を訂正す、

十五日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○帝国学士院より使者来る、○吉田雪子、岸田繁次郎来る、○ジヨセフ、コーサンドより書状と「東西思想の統一」を送来る、○原采蘋に関する書状、読売新聞に出づ、○午后、金港堂の使者来る、乃ち「女子修身」の原稿を付与す、○岡倉覚三の追悼会に美術学校に赴く、今泉雄作、木場貞長、都築馨六、福原隼次郎等と会見す、○大学図書館に赴く、○夜、補永茂助の送別会に山上御殿に赴く、井上頼国、宮地殿夫、下田義照、山本信哉、狩野亨吉等と会見す、○不在中阿部宗孝来訪す、○秋元興朝、浦谷熊吉より来状、○Emil Schroeder より案内状来る、

十六日、午前、晴天、堀謙徳、浦谷熊吉来談す、○「修身教科書」壹百部の奥附を六盟館に付与す、○速記を訂正す、○帝国学士院より使者来る、○縫子、高師附属小学校及び吉田宅に赴く、○午后、日本橋図書館に赴き、「実業道德に就いて」一場の演説をなす、○速記を訂正す、○不在中磯江潤来訪す、○吉田修夫より「聖徳太子の信仰」を送来る、○夜、原稿を浦谷熊吉に送る、○「尚武論」及び「武事提要」等を読む、○此日、補永茂助、欧洲に向つて出発す、○製本屋及び植木屋来る、○縫子、吉田宅に泊りに行く、○押し翼宅より兒女二名遊びに来る、

十七日、午前、曇天、犯罪学協会より来状、○講義に大学に赴く、○成瀬仁藏来訪す、○午后、新村喜一郎、白井成允、磯江潤、武

藤儀亮来訪す、○「倫理と宗教との関係」の奥附五十枚を富山房に付与す、○文明協会より「露国民」と「経済政策」(下)とを送来る、○買物に博品館に赴く、○夜、雨天、速記を訂正す、○此日、「宗教と教育との関係」読売新聞に出づ、○老教授と題する人物評論、中央新聞に出づ、

十八日、午前、雨天、速記を訂正す、○菓物壺箱を間端吾に送る、○漢文学会及びB. G. Teubnerより来状、○午后、曇天、浦谷熊吉来談す、○在伊太利小林照朗より絵葉書来る、○速記を訂正す、○床屋に赴く、○縫子、高子と共に国技館に赴く、○角田松壽、筆記を携来る、○溝淵貞重、御礼の為に来る、○夜、Ernest Renan, Vie de Jesus を読む、

十九日、午前、晴天、井上頼国より来状、○学習院に赴く、○松原一義、「南豊文集」を携来る、○教授会に大学に赴く、○午后、子爵黒田長敬より案内状来る、○本多日生及び松井錦橋より来状、○勉強、○婦一協会に上野精養軒に赴く、○夜、十時過帰宅、○不在中祥雲確悟来訪す、○帝国学士院及び阿部宗孝より来状、

二十日、午前、曇天、堀謙徳より来状、○書状を浦谷熊吉に送る、○Max Verworn, Allgemeine Physiologie を読む、○松井錦橋より来状、○午后、雨天、講義に大学に赴く、○星野恒より「豊城存稿」及び「豊城謄稿」を送来る、○帝国学士院より来状、○夜、速記を訂正す、○伊藤吉之助来訪す、

廿一日、午前、半晴、阿部宗孝より来状、○岡部遠光の訃報来る、○島本愛之助、渡邊哲三郎、安河内升、国分まさ子を子、岩崎歌郎、岸田繁次郎来訪す、○女中千代を浦谷熊吉宅に遣はす、○吉田良春、馬詰秀三、岩瀬亀之進、東亜協会々員となる、○午后、今泉

辰次郎来る、縫子之と会談す、○国分まさを来る、乃ち談話を筆記せしむ、○峰間信吉、上原才一郎、「漢文教科書」を携来る、○速記を訂正す、○夜、雨天、宮本和吉来談す、○速記を訂正す、○久保源一より来状、○此日、新村喜一郎、尾前正行来訪す、

廿二日、午前、曇天、千田紋次郎より来状、○講義に大学に赴く、○浦谷熊吉来談す、○荒川隆之助より「水戸学研究資料」を送来る、○徳川慶喜、今朝四時逝去の報あり、享年七十七、○午后、東洋大学に赴き、「宮本武藏と武士道」を演述す、○境野哲、三石賤夫及び鼎義曉と会见す、○片山博士在職廿五年祝賀会上野精養軒に赴く、○ビール壺打とシトロソ壺打とを浩々居に送る、○夜、速記を訂正す、○「本朝武芸小伝」を読む、○田中次郎及びSecond English Teacher's Conference より来状、

廿二日、午前、晴天、宮本包則、家人穆堂、蠣瀬彦藏、成瀬仁藏来訪す、○中島徳藏より来状、○正勝、益之進と国技館に赴く、○高子、押田翼宅に赴く、○午后、速記を訂正す、○星野博士在職二十五年祝賀会上野精養軒に赴く、○不在中森田卓立、宮本惠雲、御礼の為に来る、○久保源一來訪す、○実業之日本社より来状、

廿四日、午前、晴天、櫻井栄山より来状、○講義に大学に赴く、○女中千代を大学に遣はす、○午后、速記を訂正し了りて之を根岸福弥に送る、○武藤儀光、下澤瑞世、角田松壽、来訪す、○「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○「教界春秋」を草す、○夜、上原才一郎、契約書を携来る、乃ち契約をなす、○風、○「教界春秋」を草す、○桐花学会より来状、

廿五日、午前、晴天、日本弘道会及び白山謙致より来状、○「教界春秋」を草す、○羽田貞義来訪す、○浦谷熊吉来談す、○影山勝より来

状、○午后、女中千代を岸田宅に遣はず、○原稿を印刷所に送る、  
○下澤瑞世、原稿を携来る、○家族会及び大正生命保険会社より  
来状、○岸田繁次郎、阪崎坦来る、○下澤瑞世の原稿を訂正す、  
○丁酉倫理会の速記を訂正す、○夜、速記を訂正す、○書状を  
藤井健治郎に送る、

廿六日、午前、晴天、学習院に赴く、○女学部に於て皇后陛下及び  
泰宮殿下の賜物を拝受す、○「中学漢文」二百五十部の奥附を光  
風館に付与す、○岡野義三郎及びマニユファクチュラス生命保  
険会社より来状、○午后、速記を訂正す、○五藤清太郎来訪す、  
○帝国文学評議員会に山上御殿に赴く、○夜、十時頃帰宅、○文  
科大学より来状、○此日、五島博士より始めて米国ハワード大  
学日本講義に就き交渉あり、「日本」は置き換え予定だったカ  
○岸田繁次郎を御殿場に遣はず、  
廿七日、午前、晴天、安藤永孚より来状、○岡野義三郎より「満中  
陰志」を送来る、○二松堂より「神代史の新しい研究」を送来る、  
○書状を二松堂に送る、○聚精堂より「考古学」を送来る、○「生  
命論」を読む、○女中千代を文部省に遣はず、○関寛美来る、○  
研究、○午后、講義に大学に赴く、○井尾調太郎来訪す、○婦一  
協会より使者来り、今岡信一良の書状を齎す、○速記を訂正す、  
○夜、金港堂及び富田いわ、全ふぢより来状、○速記を訂正す、  
廿八日、午前、曇天、五島清太郎より来状、○速記を訂正す、○板  
橋菊松、船越文教、白井成允、岸田繁次郎、島本愛之助、角田  
松壽来訪す、○莊資親来る、有故不遇、○関寛美、「象山全集」  
を携来る、○午后、子爵黒田長敬の結婚の披露に華族会館に赴  
く、○不在中常盤大定来る、○岸田繁次郎来る、○速記を訂正

す、○夜、速記を訂正す、○委任状を高杉貞一及び影山勝に送る、  
○哲学会、帝国学士院及び島本愛之助より来状、

廿九日、午前、曇天、講義に大学に赴く、○内外教育評論社より「木  
山熊次郎遺稿」を送来る、○速記を訂正す、○不在中浦谷熊吉来る、  
○午后、帝国学士院より印刷物を送来る、○速記を訂正して之を  
中島徳藏に送る、○「生命論」を読む、○夜、「生命論」を読了す、  
○久保田勝弥より来状、○中島徳藏の使者来る、○研究、  
三十日、午前、曇天、浦谷熊吉、岸田繁次郎、中野俊助、花輪郡藏、  
石橋臥波来訪す、○研究、○午后、哲学会秋季大会に大学に赴き、  
「生命論の概評」を講演す、○夜、七時半頃帰宅、○「回顧録」  
を読む、

## 十二月

一日、午前、雨天、講義に大学に赴く、○石橋臥波に大学に逢ふ、  
○岸田繁次郎来談す、○「東亜の光」(八の一二)成る、○「我  
国に於ける宗教と教育」東亜の光に出づ、○水道使用料金七円弐  
拾九銭を郵便局に納む、○不在中森良三郎、今井久藏来る、○午后、  
土田誠一、関寛美、花輪郡藏、浦谷熊吉、今井久藏来訪す、○堀  
謙徳、藤井健治郎より来状、○縫子を三井銀行に遣はず、○夜、  
伊藤吉之助来談す、○文科大学、中村達太郎及び吉瀬類太等より  
来状、○亀井忠一及び齋藤孝治より来状、○此日、製本屋来る、  
二日、午前、晴天、吉田雪子、島本愛之助来る、○金港堂より印  
税を送来る、○午后、速記を訂正す、○長井眞琴来る、乃ち原  
稿を付与す、○岸田繁次郎来る、○女中千代を東海銀行に遣は  
す、○書状を中熊直喜及び吉瀬類太に送る、○Ernest Renan,  
La Vie Jesus を読む、○夜、星野恒より来状、○夜、Willibald



Beyschlag, Das Leben Jesu を読む、○Renan, La Vie Jesus を読む、○岩崎歌郎、及び東京音楽学校等より来状、

三日、午前、曇天、学習院に赴く、○午后、教授会に山上御殿に赴く、○五島清太郎と会見す、○山川総長を訪うて会談す、○天霽る、○三浦純雄及び修養団等より来状、○島本愛之助来談す、○勝田吉治郎より蜜柑壹箱を送来る、○Memoirs of the Imperial Academy, Section II, Vol.I, No.1. を送来る、○夜、岩波茂雄来訪す、○休養、

四日、午前、晴天、上原才一郎、坂本嘉治馬より来状、○森良三郎、島本愛之助、貞金近松来る、○Wundt, Grundriss der Psychologie を読む、○南満州鉄道株式会社総裁中村是公より「朝鮮歴史地理」二箇及び「満州歴史地理」二冊并に附図を送来る、○午后、講義に大学に赴く、○「大日本仏教全書」を送来る、○縫子、池袋村に赴く、○不在中光風館より使者来る、○「回顧録」を読む、○夜、伊藤吉之助、宮本和吉、辻本卯藏来訪す、○「回顧録」を読む、

五日、午前、晴天、浦谷熊吉、高木八太郎、岩波茂雄、来訪す、○午后、委員会に帝国学士院に赴く、○飛鳥山澁澤邸に赴く、○夜、帝国学士院及び長谷川福平より来状、○速記を訂正す、○此日、ウォルター、デニング逝く、心臓麻痺の為なり、享年六十、

六日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○病院に赴き、右腕関節の痛所あるを以て田代義徳の診察を受く、即ち Schleimbeutelentzündung なることを知るを得たり、○理科大学に赴き、五島清太郎を訪ひ、明年 Harvard University に赴き、Japanese Literature and Life の講座を担任せんことを確答せり、

○岸田蒔夫来訪す、○午后、島本愛之助、角田松壽来訪す、○巢鴨に赴き、更に又池袋村に到り、地所を観る、○土屋源喜知より書状と「天理教々典」とを送来る、○帰一協会より来状、○夜、佃與次郎来る、乃ち談話を速記せしむ、

七日、午前、晴天、片山国嘉より来状、○橘惠勝、田中義能、上杉慎吉、成瀬仁藏来訪す、○今井久藏より筆記を送来る、○製本屋来る、○堀謙徳及び金港堂より来状、○縫子、春枝及び吉田雪子と共に家族会に女子職業学校に赴く、○午后、古川黄一、「山鹿甚五左衛門」を携来る、○書状を金港堂に送る、○家族会に赴く、○夜、南條博士法華経梵本出版祝賀会に植物園に赴く、○中島利一郎より書状と原稿とを送来る、○書状を千田紋次郎に送る、○書状を貞金近松に送る、○今井久藏来る、乃ち筆記の訂正を付与す、○此日、高子、風邪を患ふ、

八日、午前、晴天、澁澤栄一より来状、○講義に大学に赴く、○上田萬年を学長室に訪ふ、○佃與次郎より速記を送来る、○西河龍治より菓子を送来る、○坂井為次、来る、乃ち談話を速記せしむ、○午后、高木八太郎来る、乃ち談話を筆記せしむ、○北原峯子、石部定、大島正徳、宮本和吉、伊藤吉之助、森良三郎来る、○藤井健治郎より電報来る、○速記を訂正す、○高子軽快、○夜、福永俊良及び古川勝隆より来状、○速記を訂正す、○書状を福永俊良に送る、○書状を貞金近松に送る、○帝国学士院より来状、○高島平三郎より原稿を送来る、○詩稿を黒木安雄に送る、

九日、午前、晴天、速記を訂正す、○浦谷熊吉、嶋本愛之助来訪す、○書状を上杉慎吉に送る、○縫子、買物の為に外出す、○山岸光宣、武藤儀光、東亜協会委員となり、大島正徳、桑田芳藏、東亜

協会評議員となる、○午后、峯間信吉より来状、○速記を訂正す、○岸田繁次郎、五島清太郎来訪す、○帝国教育会より天野謙二郎を紹介し来る、○藤井健治郎より原稿を送来る、○藤井健治郎の原稿を島本愛之助に送る、○高木八太郎より原稿を送来る、○夜、原稿を日清印刷会社及び高木八太郎に送る、○書状を末松謙澄に送る、○帝国学士院より来状、

十日、午前、曇天、学習院に赴く、○島本愛之助、坂本謹吾来訪す、○午后、佐藤昌介の送別会に帝国ホテルに赴く、ハリス、マツコーレー、牧野伸顯、澁澤栄一、綱島佳吉、圖本元貞、神田乃武等と会见す、○不在中宮本和吉来る、○高杉貞一及び山口正一郎より来状、○「我、国、宗、教、の、前、途」愛媛新報に出づ、○日比野寛より「日本臣道」を送来る、○書状を中村是公及び島本愛之助に送る、○速記を訂正す、○寺島天園来る、有故不遇、夜、引続き速記を訂正す、○書状を阿部宗孝に送る、○帝国教育会より来状、○此日、製本屋及び角田松壽来る、

十一日、午前、晴天、阿部宗孝より来状、○書状を安達鐵造及び貞金近松に送る、○縫子を三井銀行及び第一国立銀行に遣はす、○静岡県駿東郡御殿場東山附の土地六百坪、勝又鶴吉より買受の事、決定す、○Wilhelm Wundt, Grundriss der Psychologie を読む、○午后、金参百円の為換と委任状とを高杉貞一に送る、○講義に大学に赴く、○帰途宮本和吉と会談す、○上原才一郎来る、○速記を訂正す、○経師屋来る、○夜、有富虎之助来る、○速記を訂正す、○此日、「女子修身」一百部の奥附を金港堂に付与す、

十二日、午前、雨天、阿部宗孝より来状、○岸田繁次郎、深作安文、

浦谷熊吉、高橋里美、菅原廣濟、岩波茂雄来訪す、○午后、大学に赴き中島力造を倫理学研究室に訪ふ、○帝国学士院に赴く、十三日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○「芸術と道德」丁酉倫理に出づ、○下沢瑞世、「日本軍心理」二冊を携来る、○午后、帰一協会より来状、○磯江潤より反物を送来る、○浦谷熊吉、角田松壽、中島徳藏来訪す、○「教界春秋」を草す、○夜、「教界春秋」を印刷所に送る、○帰一協会より来状、○書状を読売新聞に送る、○岸田繁次郎来る、○硫酸会社より来状、

十四日、午前、晴天、中島萬次郎、手塚光貴、三卷洋一、山内計作来訪す、○書状を松村義太郎に送る、○午后、新村喜一郎、白坂栄彦来訪す、○速記を訂正す、○島本愛之助来る、○原稿を乃木会に送る、○日本学会の案内状拾通を発送す、○夜、書状を貞金近松及び田原源三郎に送る、○研究、○此日、松浦家より「聖教要録」及び「全弁義」を送来る、○齋藤省三より菓子二種を送来る、十五日、午前、晴天、講義に大学に赴く、○ペルリ子ル博士と会见す、○吉瀬類太、櫻井栄山より来状、○文成社より書類を送来る、○藤井健治郎より小包を送来る、○強震、○午后、武藤儀光、浦谷熊吉、小林一郎、葉山萬次郎、馬場鏡一、齋藤精輔、押田清子来訪す、○菅原廣濟来る、乃ち「多羅葉鈔」を付与す、○夜、文科大学及び佐藤昌介より来状、○書状を古屋吉彦、栢樹知成、井上又藏、平田竹造、吉瀬類太に送る、○岸田繁次郎来る、○黒田侯の詩稿を閲す、

十六日、午前、雪、井上圓了及び川島平五郎より来状、○黒田侯の詩稿を閲す、○製本屋来る、○雪降り続き銀世界となる、○午后、書状を山鹿誠之助及び丸善洋書店に送る、○黒田長敬子爵より鯉

節と鶴子餅とを送来る、○黒田侯の詩稿を閲了し、之を黒田邸に送る、○文明協会より「近代化学の勝利」及び「応用社会学」を送来る、○夜、日本学会に山上御殿に赴く、コーツ、アイキンス等来会す、

十七日、午前、曇天、学習院に赴き、尋いで女学部へ赴く、○午后、文科大学相談会に山上御殿に出づ、○中島力造と哲学研究室に会谈す、○天霽る、○不在中国分まさを、菓子を携来る、○Frau Dr. Anna Berliner より来状、○米国より Some Roads towards Peace, by Charles W. Eliot を送来る、○女中千代学習院に赴く、○印刷所より「東亜の光」口絵を送来る、○夜、「東亜の光」口絵解題を印刷所に送る、○小野秀雄より来状、○書状を黒木安雄に送る、

十八日、午前、晴天、宮崎彦麿、吉田雪子来る、○女中千代を東海銀行に遣はす、○小野清秀、土豹の皮を携来る、○采蘋に関する書状、読売新聞に出づ、○Wundt, Grundriss der Psychologie を読む、○序文を高木八太郎に送る、○高杉貞一及び在米国姉崎正治より来状、○静岡県駿東郡御厨町東田中字向追出原野壱反七畝歩(五百七十坪)を勝又鶴吉より買取る、○午后、講義に大学に赴く、○「師範修身」二百部の奥附を晩成処に付与す、○上野精養軒より招待状来る、○学習院女学部より御礼を送来る、○島本愛之助、角田松壽来訪す、○夜、書状を高杉貞一に送る、

十九日、午前、晴天、小野清秀、浦谷熊吉、岸田繁次郎来る、○山鹿誠之助より来状、○書状を高杉貞一及び山崎亀太郎に送る、○午后、金五拾円の為換を影山勝に送る、○書状を磯江潤及び丸善洋書店に送る、○元良米子来訪す、○前川文栄閣よりビール三

本を送来る、○「士道心得書」を読む、○夜、「士道心得書」「匡正論」「日本国風」「武備小学」を読む、○日之出生命保険会社より来状、○此日、勧誘状を小野清秀に送る、

二十日、午前、晴天、文部省より来状、○廣池千九郎、贈物を携来る、○読売新聞記者某来訪す、○講義に大学に赴く、○岩橋遵成より蜜柑箱を送来る、○勧誘状を河本猷藏に送る、○午后、徳川達孝より来状、○書斎の整理をなす、○岡田哲藏より来状、○浦谷熊吉来談す、○夜、勉強、

廿一日、午前、晴天、岩橋遵成来訪す、○研究、○縫子、高師附属小学校に赴く、○小野清秀より来状、○小野清秀、東亜協会々員となる、○書状を藤野房次郎に送る、○午后、市澤弥一來る、夜の七時に再び来ることを約す、○文明協会より砂糖を、丸善洋書店より洋酒三罈を送来る、○辻本卯藏、常盤大定来訪す、○帝国学士院より来状、○夜、市沢弥一來る、乃ち談話を筆記せしむ、○金港堂より来状、

廿二日、午前、曇天、諸雑誌の整理をなす、○岸田繁次郎来る、○墨西哥答礼大使デ、ラ、バラ氏来朝す、○午后、角田松壽、綿貫哲雄、齋藤精輔来訪す、○黒木安雄より詩稿を送来る、○諸雑誌の整理をなす、○黒田侯の詩稿を閲読す、○製本屋来る、○帝国大学より「大日本史料」一冊を送来る、○夜、中島利一郎来る、乃ち之に詩稿を付与す、○「禅月楼集」を読む、○帝国学士院より「羅馬法学提要」を送来る、○此日、渡辺眞に謝礼をなす、

廿三日、午前、晴天、金港堂及び影山勝より来状、○婦人画報より贈物来る、○浦谷熊吉来訪す、○三省堂より真綿を送来る、○諸雑誌の整理をなす、○製本屋来る、○山崎亀太郎より来状、○在

独逸補永茂助より絵葉書来る、○午后、女中千代を遣はし、反物を浦谷熊吉及び岸田繁次郎に送る、○目黒書店より角砂糖を送る、○書状を貞金近松に送る、○帝国学士院、教科書会、大迫尚敏、岸田繁次郎より来状、○有馬祐政、押田三郎、五島清太郎来訪す、○岩田僊太郎より印税と真綿とを送来る、○市沢弥一より速記を送来る、○速記を訂正す、○夜、岸田繁次郎来る、○速記を訂正す、○此日、鶏卵箱を石原氏に、品料参円を小田氏に送る、廿四日、午前、晴天、八、三〇新橋発の汽車にて小田原に向ふ、○女中千代を大学に遣はす、○十時半頃小田原中学校に赴き、一場の講演をなす、○午后、二宮神社に参拝して帰途に就く、汽車中渡瀬庄三郎と会談す、○電車中折田彦市と会談す、○女中千代を文部省に遣はす、○五時過帰宅、○不在中桑木嚴翼来訪す、○森良三郎、蜜柑箱を携来る、○吉田静致妻、菓物壱籠を携来る、○浦谷熊吉より来状、○熊本県師範学校修養団本部より写真を送来る、○平出謙吉より「鏗痴集」を甫守謹吾より「現代名文集」を送来る、○「大日本仏教全書」来る、○「貝原益軒先生を追懐す」福岡県教育会々報に出づ、○同文館より文房具を、齋藤基次郎より味醂二罎を送来る、○夜、船越衛の訃報来る、○書状を岩橋遵成に送る、○人類学教室より来状、○速記を訂正す、○此日、縫子病臥、○「女子修身」六百部の奥附を金港堂に付与す、○竹内康二に「禅月楼集」を付与す、

文学社より盆二箇を、浅倉屋より菓子壱箱を、島本愛之助より葡萄酒三罎を送来る、○文成社より鴨沓羽を送来る、○速記を訂正す、○金港堂よりビール壱打を送来る、○夜、南條文雄より来状、○速記を訂正す、○「吞象楼遺稿」を読む、

廿六日、午前、晴天、帝国議会開会、○森良三郎来る、○葛山長一（加奈陀生命保険会社社員）来る、乃ち保険料金四百〇四円を支払ふ、第十一回目なり、○原稿を中島徳藏の使者に付与す、○時事彙存社より「日本西教史」（上）を送来る、○宮内省より「新年宴会召状」来る、○白井成允来る、○長谷川福平、富山房の贈物を携来る、○今福忍より菓子箱を送来る、○午后、男爵船越衛の葬式に青山斎場に会す、○宣光をして前田某の葬式に吉祥寺に会せしむ、○夜、学習院長大迫尚敏の招待に富士見軒に赴く、○不在中島利一郎、御礼を携来る、○深作安文、鯉節を携来る、○島本愛之助、白井成允及び帝国学士院より来状、○縫子、稍々軽快、○甫守謹吾より「少年少女の行儀作法」を送来る、○鈴木大拙より鴨二羽、吉田雪子より漬物一樽を送来る、○「東亜の光」（九の一）成る、○「孔子とソクラテス」東亜の光に出づ、○文科大学より来状、○山中立木より来状、

廿七日、午前、晴天、富尾木知佳より雉子二羽を送来る、○書状を中島利一郎及び岸田繁次郎等に送る、○午后、井上健兒より肴を、姉崎より漬物を、六盟館よりハンケチ壱打を送来る、○津野慶太郎、菓子箱を携来る、○井上波野、真綿と絹ハンケチとを携来る、○船越光之丞より礼状来る、○富山房より印税を送来る、○中熊直喜より礼状来る、○製本屋来る、○博文館よりビール半打を送来る、○「吞象楼遺稿」を読む、○夜、書状を安藤永孚に送る、



○風邪の気味あり、

廿八日、午前、晴天、高杉貞一、西澤之助より来状、○角田松壽、「東亜の光」九冊を携来る、○法貴慶次郎より菓子を送来る、○三島復、書籍三冊を返附す、○書状を高杉貞一に送る、○高木八太郎よりハンケチを送来る、○餅搗をなす、○田中義能より砂糖を送来る、○午后、黒木安雄、大島正徳来る、○書状を中島利一郎に送る、○蠣瀬彦藏より靴下半打を送来る、○女中ふみを東海銀行に遣はす、○菓子を姉崎、博多川端、中洲及び甘木に、盆を吉田雪子に送る、○運動に小日向方面に出づ、○成美堂より漬物壺樽を、河内堂より鶏卵箱を送来る、○夜、静養、

廿九日、午前、晴天、野田義夫より書状と漬物とを送来る、○黒木安雄より来状、○澁澤栄一を飛鳥山に訪ひ、阪谷芳郎と会談す、○磯辺弥一郎よりビール半打を送来る、○午后、岸田繁次郎、白井成允、鈴木友吉、齋藤精輔、馬場鉄一、井上成美、島本愛之助及びDr. Karl Florenz 来訪す、○竹内康二、「禅月楼集」を携来る、○育成会よりビール半打を、大日本漢文学会より品料を送来る、○間端吾来る、○東亜協会の会計簿を島本愛之助に付与す、○夜、加藤玄智より来状、

三十日、午前、晴天、多木悦造及び実業之日本社より来状、○齋藤精輔より鴨二羽を送来る、○井上清助より人形を送来る、○貞金近松来る、○女中千代を三井銀行及び三菱銀行に遣はす、○縫子、買物に出づ、○島本愛之助より来状、○午后、新村喜一郎及び製本屋来る、○林平次郎よりビール半打を送来る、○序文を草して之を小澤錦十郎に送る、○芝田徹心及び在伯林春山作樹より年始状来る、○「教育と宗教」小学校に出づ、○峯間信吉来る、乃ち

共に西川洋食店に赴き、晚餐をなす、○夜、弘道館より「精神生活の哲学」を送来る、○島本愛之助より名簿二冊を送来る、○書状を帝国学士院及び峯間信吉に送る、○此日、年賀状約百五十通を発送す、

卅一日、午前、晴天、森良三郎来る、○年賀状約五十通を発送す、○黒木安雄より書状と書苑七冊とを送来る、○正勝を遣はして砂糖と半襟とを井上成美宅に送る、○午后、年賀状約百通を発送す、○製本屋来る、○運動に神田に赴く、○賀状二通来る、○夜、買物に神田に赴く、○「国民性の或点に就いて」弘道に出づ、○茲に歳末に際し、過去一年間の事を瞥見するに、購入書籍五拾九部、寄贈書籍百五拾七部、合計式百拾六部、○教科書類の検印は金港堂の「中学修身」式萬式千九百八十、「女子修身」壹萬參千參百四十五、「農業修身」參百五十、「師範修身」四百、合計參萬七千〇七十五部、○文学社の分は「実業修身」九百、「中学修身」四千三百五十、○晩成処の「師範修身」參千八百五十、○六盟館の「実業修身」七百、合計四萬六千八百七十五部（以上教科書）○其他「学生宝鑑」式百、「陽明哲学」式百五十、「古学哲学」百五十、「朱子哲学」百、「教育と修養」參百、「救語衍義」一千、「武士道叢書」二千、合計四千、總合計五萬〇八百七十五部、

到来物如左

文房具	同文館	漬物	姉崎
菓子	笹川	ビール半打	博文館
真綿	光風館	書束箱	富山房
味醂二本	青山齋藤	ビール半打	磯辺弥一郎
反物一反	磯江潤	漬物	成美物

物品券	弘道館	雉子二羽	富尾木
鴨二羽	齋藤精輔	鴨一羽	文成社
湯吞二箇	廣池千九郎	蜜柑箱	岩橋
蜜柑箱	勝田	洋酒三罎	丸善
砂糖	文明協会	角砂糖	目黒書店
鯛	井上健兒	鯛	大町美種
菓子	富田純吉	真綿	三省堂
蜜柑	森良三郎	菓物	吉田静致
ハンケチ	高木八太郎	ビール半打	育成舎
葡萄酒三本	島本	菓子	法貴慶次郎
砂糖	田中義能	ビール壺箱	大倉書店
菓子	浅倉屋	ビール壺打	金港堂
菓子	今福忍	盆二箇	文学社
鴨二羽	鈴木大拙	真綿	晚成処
ビール半打	林平次郎	靴下半打	蠣瀬
漬物	野田	漬物	吉田雪子
鯉節	深作安文	ハンケチ	六盟館

(むらかみ こずえ 東京大学文書館)  
(もりもと さちこ 東京大学文書館)